



平成28年度（2016年度）

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業
（次世代研究者育成プログラム）

未来を拓く地方協奏プラットフォーム 成果報告書

平成29年 3月

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業

(次世代研究者育成プログラム)

未来を拓く 地方協奏プラットフォーム

平成 28 年度

(2016 年度)

成果報告書

平成 29 年 3 月

目次

1. はじめに.....	1
2. 「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の概要.....	2
2-1. 概要.....	2
2-2. 連携機関.....	3
2-3. 推進体制.....	5
2-3-1. 平成 28 年度の推進体制.....	6
2-3-2. HIRAKU 運営協議会事務局.....	7
2-3-3. HIRAKU 運営協議会開催実績.....	8
2-4. 年次計画（数値目標）.....	10
2-4-1. コンソーシアム教員の採用人数.....	10
2-4-2. 長期インターンシップ生の派遣人数.....	10
3. テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム.....	11
3-1. コンソーシアム教員の公募・審査・採用実績.....	11
3-2. コンソーシアム教員の着任状況.....	14
3-3. コンソーシアム教員の育成.....	16
3-3-1. 自立的な研究環境確保について.....	16
3-3-2. コンソーシアム教員研修について.....	16
3-3-3. メンター制度.....	20
3-4. コンソーシアム教員の評価.....	21
4. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム.....	22
4-1. 長期インターンシップ生の募集.....	22
4-1-1. 第 4 期（平成 28 年度前期）.....	22
4-1-2. 第 5 期（平成 28 年度後期）.....	22

4-2. 長期インターンシップの派遣実績.....	23
5. 成果報告会	26
5-1. 第3回成果報告会.....	26
5-2. 第4回成果報告会.....	27
6. DCやPDが積極的に関与する取組.....	29
6-1. 未来博士3分間コンペティション2016.....	29
6-2. 課題提案型ワークショップ.....	31
6-3. ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム (The 13th Nano Bio Info Chemistry Symposium) .	33
7. コンソーシアム人材セミナー.....	34
8. 若手研究人材の意識啓発を促す取組.....	42
8-1. ホームページ.....	42
8-2. 学生むけ小冊子 HIRAKU.....	44
8-3. 学生むけ小冊子 HAKUSHI	47
8-4. 4年手帳.....	48
9. 若手研究人材のキャリアスタート支援	49
9-1. 若手研究人材ポートフォリオ HIRAKU-PF	49
9-2. 博士人材キャリア相談室.....	55
10. 代表機関および共同実施機関の独自の取組.....	56
10-1. 広島大学独自の取組.....	56
10-1-1. 長期インターンシップチャレンジカフェ	56
10-1-2. 広島大学特別研究員成果報告会	58
10-1-3. 博士のためのキャリアガイダンス.....	60
10-1-4. 実践プログラム.....	60

10-1-5. 研究者紹介	64
10-2. 山口大学独自の取組.....	71
10-2-1. 実施体制.....	71
10-2-2. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム	71
10-2-3. テニユアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム.....	73
10-3. 徳島大学独自の取組.....	75
10-3-1. 実施体制.....	75
10-3-2. 若手研究者の自立・流動促進プログラム	75
10-3-3. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム	75
10-3-4. その他の活動	76
10-3-5. 特筆すべき活動.....	76
11. 外部評価	77
11-1. 外部評価委員会	77
11-1-1. 第2回外部評価委員会.....	77
11-2. 科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業 中間評価.....	78

1. はじめに

本報告書は、平成 26 年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業(次世代研究者育成プログラム)」に採択された「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」(HIRAKU)の、開始後 3 年目の活動とその成果をまとめたものです。

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」は、広島大学が代表機関、山口大学と徳島大学が共同実施機関として、また、本書で述べるように、多くの連携機関の協力を得て、推進しています。博士課程後期学生を含む若手研究人材の育成を目的とするプラットフォーム(HIRAKU-PF)を共同で構築し、自己啓発や専門的能力開発の環境をつくり、また、長期インターンシップや共同研究等の機会をふやしています。さらに、テニュアトラック研究者をコンソーシアムとして共同で公募・選考し、より多くの優秀な若手研究人材を国内外から集め、多様な研究環境と雇用形態を提供しています。また、優秀な女性研究者に活躍の場を提供する取組も進めています。

若手研究人材の養成やキャリアスタート支援は、一つの大学だけでできるものではありません。社会全体の問題として、多くの機関が協力して行うものです。本コンソーシアムはこのような考え方を基調として、問題意識を共有している大学や企業等が、組織の壁を越えて、連携し実施しています。HIRAKU では、連携大学に所属する大学院生にも、長期インターンシップに派遣する機会を提供しています。

広島大学では、科学技術人材育成費補助金「イノベーション創出若手研究人材養成」に採択された「地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画」(平成 21～25(2009～2013)年度)の取組により、若手研究人材を社会に輩出する、ということ意識して実施するようになりました。また、科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速」に採択された「広大システム改革による女性研究者活躍促進」(平成 22～26(2010～2014)年度)の取組により、女性限定公募と女性研究者支援を実施してきました。「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」は、これら二つの取組を実施してきた経験と蓄積をふまえて、事業全体を設計し、実行しています。

本事業が採択され、開始した平成 26 年 10 月から半年間は、非常に短期間に多くの事項を決定し実行する必要があり、まさに「突貫工事」の様相でした。しかし、多くのみなさまのご協力により、最初の大きな山を無事に越えることができました。開始 2 年目に入ると、だいぶ軌道にのってきました。開始 3 年目の今年、事業全体を落ち着いて実施することができるようになっており、補助事業の中間評価も無事に受けることができました。この事業は、平成 26～33(2014～2021)年度の 8 年間の予定で実施しています。すでに中間点に達しようとしています。さらにより良い取組とするためには、多くのみなさまのご協力が必要です。ここに開始 3 年目の活動と実績をまとめております。本事業の活動状況をご覧ください、ご忌憚のないご意見をいただきたいと考えています。

これからもどうぞよろしく願いいたします。

平成 29 年 3 月 1 日
広島大学 理事・副学長(大学改革担当)
大学院理学研究科教授
相田 美砂子

2. 「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の概要

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」は、平成26年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業(次世代研究者育成プログラム)」に、申請し、採択された。本報告書は、開始後3年目となった平成28年度の成果をまとめたものである。

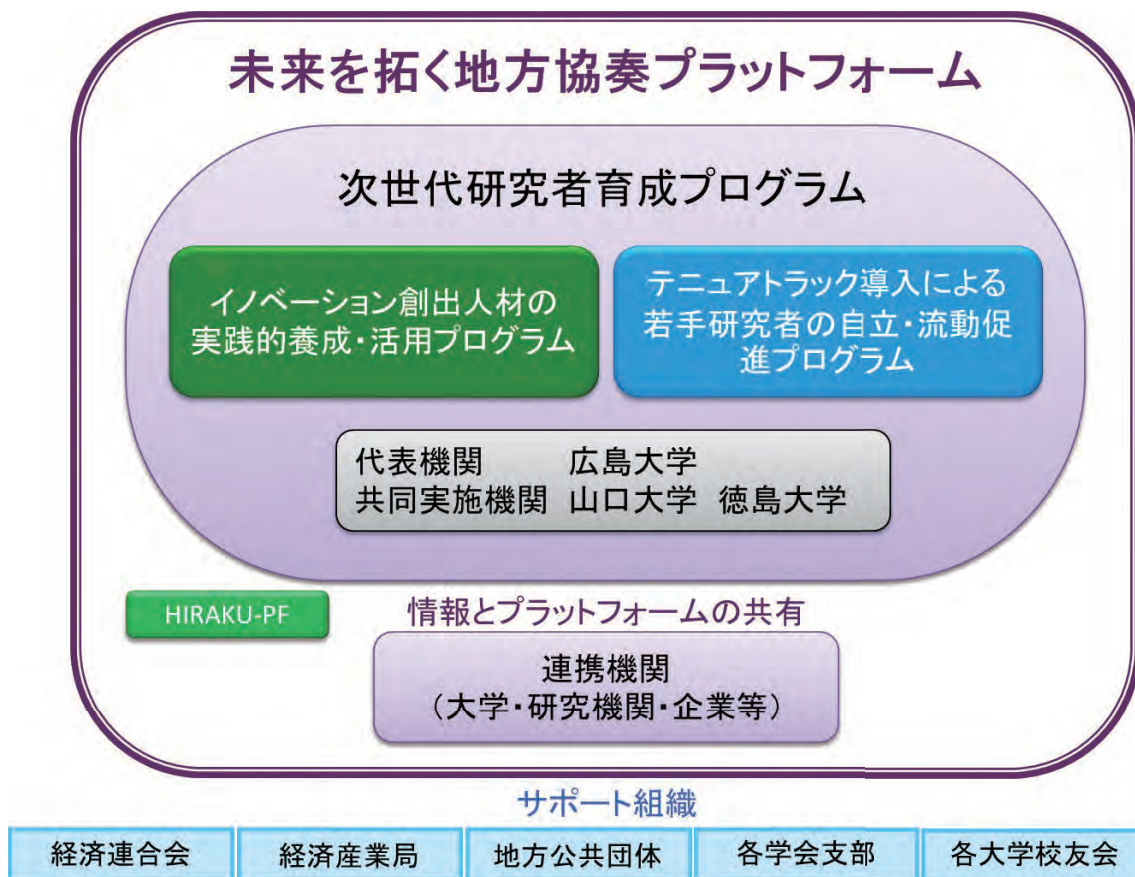
2-1. 概要

コンソーシアムの名称 未来を拓く地方協奏プラットフォーム
代表機関名: 国立大学法人 広島大学
総括責任者名: 広島大学長
共同実施機関名: 国立大学法人 山口大学, 国立大学法人 徳島大学
実施予定期間: 2014(平成26)年度～2021(平成33)年度
取組の概要:

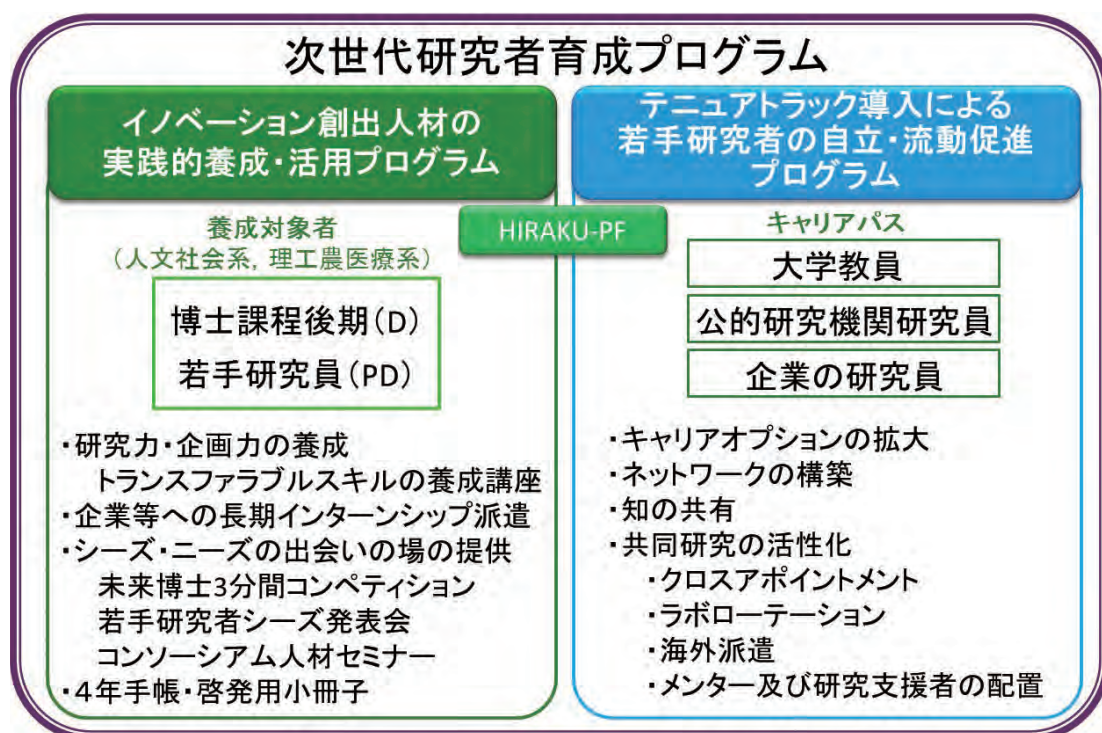
中国四国地方の大学等を中心としたコンソーシアムを構築し、共同でテニュアトラック研究者を公募、選考する。より多くの優秀な若手研究人材を国内外から集める。多様な雇用・流動形態(クロスアポイントメント、ラボローテーション等)の導入により、彼らが異なる知と交わり、ネットワークを構築できるように支援する。女性枠を設定し、女性の活躍促進につなげる。

博士課程後期学生を含む若手研究人材が、地域や国際社会を変革するイノベーターとして自立できるように、彼らの実践的な養成・活用を可能とするプラットフォームを共同で構築する。トランスフェラブルスキル養成に必要なリソースの共有を図り、シーズ・ニーズのマッチングにより、インターンシップ、就職、共同研究等の機会を増やす。

若手研究人材の養成・活用を通じて、コンソーシアム内外の知の循環を加速させ、地域全体の社会的課題の解決やイノベーション創出を図り、地方創生につなげる。



次世代研究者育成プログラム



2-2. 連携機関

平成 29 年 2 月末現在の連携機関は次のとおりであり、計 52 機関である。

国立大学法人

1	岡山大学
2	島根大学
3	鳥取大学
4	愛媛大学
5	香川大学
6	高知大学
7	鳴門教育大学
8	岐阜大学

公私立大学法人

1	県立広島大学
2	広島市立大学
3	広島国際大学
4	立命館大学

地方公共団体

1	広島県
---	-----

国の研究機関

1	国立研究開発法人 産業技術総合研究所中国センター
2	国立研究開発法人 産業技術総合研究所四国センター
3	独立行政法人 酒類総合研究所
4	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 西日本農業研究センター

地方の研究機関

1	地方独立行政法人 山口県産業技術センター
---	----------------------

公的機関

1	公益財団法人 くれ産業振興センター
2	一般社団法人 中国地域ニュービジネス協議会
3	中国経済連合会

企業

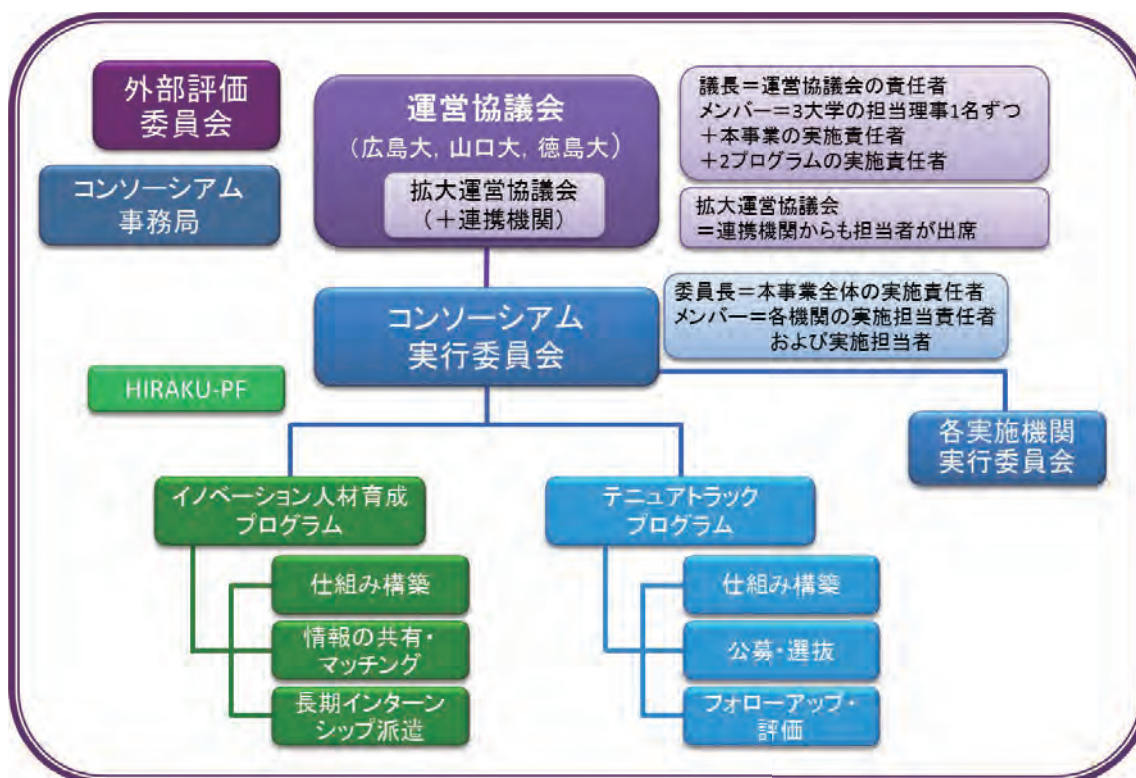
1	マツダ(株)
2	(株)サタケ
3	日本ハム(株)中央研究所
4	(株)JFE スチール
5	(株)ジェーイーエル
6	EY アドバイザリー(株)
7	(株)ワコムアイシティ
8	(株)東洋高圧
9	(株)日本製鋼所広島製作所
10	(株)アビー
11	(株)あじかん
12	(株)ジェイ・エム・エス
13	三菱レイヨン(株)大竹研究所
14	フマキラー(株)
15	帝人ナカシマメディカル(株)
16	メドエルジャパン(株)
17	中外テクノス(株)
18	富士通(株) 中国支社
19	(株)計測リサーチコンサルタント
20	三菱日立パワーシステムズ(株)呉工場
21	大塚製薬(株)
22	三菱重工業(株)広島製作所
23	中国電力(株)エネルギー総合研究所
24	東ソー(株)
25	戸田工業(株)
26	日本アイ・ビー・エム(株)
27	(株)テムザック 技術研究所

28	(株)リバネス
29	ベネッセ教育総合研究所
30	三新化学工業(株)

海外機関

1	Vitae (イギリス)
---	--------------

2-3. 推進体制



運営協議会は、実施機関である広島大学、山口大学、徳島大学の各担当理事、本事業の実施責任者、およびプログラム責任者で構成する。また、運営協議会のサブ組織として拡大運営協議会を置く。拡大運営協議会は、運営協議会に連携機関の実施責任者を加えたメンバーで構成する。運営協議会において、コンソーシアム全体および各機関の意思疎通を図る。運営協議会の下にコンソーシアム実行委員会を設置し、コンソーシアムとしての活動を進める。各実施機関においては、それぞれ実行委員会等を設置し、活動を進める。

運営協議会、拡大運営協議会、コンソーシアム実行委員会を必要に応じ開催し、各機関の事情をふまえながらコンソーシアム全体としての方針を決定し、実行する。

2-3-1. 平成 28 年度の推進体制

(1) コンソーシアムとしての責任者

総括責任者: 広島大学長 越智 光夫
実施責任者: 広島大学 理事・副学長(大学改革担当) 相田 美砂子
運営協議会議長: 広島大学 理事・副学長(社会産学連携担当) 高田 隆
(担当事務:広島大学 社会産学連携室 社会連携 GL 原 準一)
運営協議会メンバー: 山口大学 理事・副学長(学術研究担当) 堀 憲次
徳島大学 理事・副学長(研究担当) 永田 俊彦
広島大学 理事・副学長(大学改革担当) 相田 美砂子
広島大学グローバルキャリアデザインセンター副センター長 教授
三須 敏幸

コンソーシアム実行委員会:

「テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム」責任者
広島大学理事・副学長(大学改革担当) 相田 美砂子
「イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム」責任者
広島大学グローバルキャリアデザインセンター副センター長 教授
三須 敏幸

(2) 各実施機関の責任者

(2-1) 広島大学

「テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム」
広島大学 理事・副学長(研究担当) 吉田 総仁
(担当事務:学術室 研究企画室 室長 小左古 学)
「イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム」
広島大学 副学長(学生支援担当)／グローバルキャリアデザインセンター長 江坂 宗春
(担当事務:教育室キャリア支援 GL 豊島 祐一)

(2-2) 山口大学

山口大学 理事・副学長(学術研究担当) 堀 憲次
(担当事務:学術研究部研究推進課長 佐藤 元則)

(2-3) 徳島大学

徳島大学 理事・副学長(研究担当) 永田 俊彦
(担当事務:研究推進部産学連携・研究推進課長 玉田 昌宏)

2-3-2. HIRAKU 運営協議会事務局

(1) 平成 28 年度

専任職員

推進員(事務統括)	江森 早穂
コーディネーター	田村 真悠(H28.7 まで)
コーディネーター	都留 良男
推進員	岡崎 亜紀子
推進員	東 真由美
推進員	久保 叔子
事業担当システム開発	坂宗 和明
事業担当システム開発	細川 志織
事務職員(社会産学連携室)	木村 佳代(社会連携 G 主任)

協力職員

学術・社会産学連携室	原 準一(社会連携 GL)
	児玉 透(社会連携 G 主任)(H28.9 まで)
	大財 健司(社会連携 G 主任)(H28.10 から)
	岡本 拓士(研究企画室 URA)
	田尾 若菜(研究企画室 主任)

2-3-3. HIRAKU 運営協議会開催実績

(1) 第 13 回 HIRAKU 運営協議会

開催日時:平成 28 年 4 月 28 日(木)12:30~14:00

場所:広島大学東千田未来創生センター 3F ミーティングルーム

出席者:(山口大学)堀理事、佐藤課長、(徳島大学)永田理事、玉田課長、

(広島大学)高田理事、相田理事、江坂副学長、三須教授、原教育部長、眞田人事部長、渡邊社会連携部長、青山副理事 (連携機関)岡山大学有澤教授、岐阜大学坂口特任教授、県立広島大学原田副学長、広島県長谷川参事、国立研究開発法人産業技術総合研究所中国センター田原所長補佐、独立行政法人酒類総合研究所関理事、中国経済連合会山下部長、マツダ(株)平野主幹、富士通(株)田中氏 他 17 名(計 38 名)

議題と報告事項:

- ・コンソーシアム事業説明及び平成 28 年度の計画について
- ・平成 28 年度第 5 期コンソーシアム教員の公募分野及び募集人数の確認
- ・コンソーシアム連携機関の新規加入について(3 機関)
- ・第一期コンソーシアム教員の一年目評価について
- ・コンソーシアム教員公募の今後のスケジュール、採用状況について
- ・若手研究者ポートフォリオ「HIRAKU-PF」運用開始について
- ・課題提案型ワークショップ「ビッグデータの利活用について考える」開催について
- ・「未来博士 3 分間コンペティション 2016」について

(2) 第 14 回 HIRAKU 運営協議会

開催日時:平成 28 年 7 月 29 日(金)16:00~17:00

開催場所:シェラトングランドホテル広島 4F 泉

出席者:(山口大学)佐藤課長(堀理事代理) (徳島大学)玉田課長(永田理事代理)

(広島大学)相田理事、三須教授、渡邊社会連携部長(高田理事代理)、他 13 名(計 18 名)

議題と報告事項:

- ・平成 28 年度第 5 期コンソーシアム教員公募の公開ヒアリング対象者の決定
- ・平成 28 年度第 6 期コンソーシアム教員公募・採用スケジュールについて
- ・コンソーシアム連携機関の新規加入について(1 機関)
- ・「未来博士 3 分間コンペティション 2016」企画案について
- ・長期インターンシップ Q&A 及び平成 28 年度第 4 期募集要項について
- ・課題提案型ワークショップ「ビッグデータの利活用について考える」開催報告
- ・第 3 回成果報告会(山口大学)開催報告

(3) 第 15 回 HIRAKU 運営協議会

開催日時:平成 28 年 8 月 26 日(金)

開催場所:シェラトングランドホテル広島 3F 水輝

出席者:(山口大学)堀理事、(徳島大学)永田理事

(広島大学)高田理事、相田理事、三須教授、原教育部長、松尾学術部長、渡邊社会連携部長、
青山副理事、(連携機関)中国経済連合会山下部長 他 10名(計 20名)

議題と報告事項:

- ・先立って行われた平成 28 年度第 5 期コンソーシアム教員ヒアリング試験結果について
- ・平成 28 年度第 5 期インターンシップ募集要項について
- ・コンソーシアム連携機関の新規加入について(1 機関)
- ・平成 28 年度第 6 期コンソーシアム教員公募状況について
- ・第 2 期コンソーシアム教員の 1 年目評価について

(4) 第 16 回 HIRAKU 運営協議会

開催日時:平成 28 年 10 月 7 日(金)17:00~18:00

開催場所:シェラトングランドホテル広島 4F 泉

出席者:(山口大学)佐藤課長(堀理事代理)、(徳島大学)玉田課長(永田理事代理)

(広島大学)相田理事、三須教授、青山副理事 他 9名(計 14名)

議題と報告事項:

- ・第 6 期(平成 29 年度前期)コンソーシアム教員の募集人数と分野、及び第 6 期・第 7 期
コンソーシアム教員の採用・公募スケジュールについて
- ・「未来博士 3 分間コンペティション 2016」開催報告 ほか

(5) 第 17 回 HIRAKU 運営協議会

開催日時:平成 29 年 1 月 18 日(水)16:00~17:00

開催場所:シェラトングランドホテル広島 4F 泉

出席者:(山口大学)佐藤課長(堀理事代理)、(徳島大学)玉田課長(永田理事代理)

(広島大学)相田理事、三須教授、渡邊社会連携部長(高田理事代理) 他 13名(計 18名)

議題と報告事項:

- ・第 6 期(平成 29 年度前期)コンソーシアム教員のヒアリング対象者の決定 ほか

(6) 第 18 回 HIRAKU 運営協議会

開催日時:平成 29 年 2 月 1 日(水)16:20~

開催場所:シェラトングランドホテル広島 3F 水輝

出席者:(山口大学)堀理事、(徳島大学)永田理事、

(広島大学)高田理事、相田理事、三須教授、原教育部長、渡邊社会連携部長、
(連携機関)マツダ株式会社平野主幹、中国経済連合会山下部長、戸田工業株式会社志茂課
長、富士通株式会社田中氏 他 12名(計 23名)

議題と報告事項:

- ・先立って行われた平成 29 年度第 6 期コンソーシアム教員ヒアリング試験結果について
- ・平成 29 年度第 6 期長期インターンシップ募集要項について ほか

(7) 第 19 回運営協議会

開催日時:平成 29 年 3 月 10 日(金)16:00~17:00

開催場所:ホテルグランヴィア広島 21F 曙光の間

出席者:(山口大学)佐藤課長(堀理事代理)、(徳島大学)玉田課長(永田理事代理)、
(広島大学)相田理事、三須教授ほか

議題と報告事項:

- ・第 7 期(平成 30 年度前期)コンソーシアム教員の募集分野の決定

2-4. 年次計画 (数値目標)

2-4-1. コンソーシアム教員の採用人数

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
春着任		第2期	第4期	第6期	第8期	第10期	第12期	第14期
秋着任	第1期(冬)	第3期	第5期	第7期	第9期	第11期	第13期	第15期
広島大学	4	5	6	6	6	6	6	6
山口大学	0	2	1	1	1	1	1	1
徳島大学	0	1	1	1	1	1	1	1
計	4	8	8	8	8	8	8	8

2-4-2. 長期インターンシップ生の派遣人数

	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度
前期		第2期	第4期	第6期	第8期	第10期	第12期	第14期
後期	第1期	第3期	第5期	第7期	第9期	第11期	第13期	第15期
広島大学	4	14	14	14	14	14	14	14
山口大学	0	2	2	2	2	2	2	2
徳島大学	2	2	2	2	2	2	2	2
計	6	18	18	18	18	18	18	18

3. テニユアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム

3-1. コンソーシアム教員の公募・審査・採用実績

	H26 年度	H27 年度		H28 年度		H29 年度
春着任		第 2 期		第 4 期		第 6 期
秋着任	第 1 期(冬)		第 3 期		第 5 期	
広島大学	4	2 (2)	3 (1)	2 (2)	4 (4)	2 (1)
山口大学	0	2	0	1 (1)	0	0
徳島大学	0	0	1	1	0	1
公募開始	2014 年 11 月 25 日	2014 年 12 月 26 日	2015 年 4 月 28 日	2015 年 10 月 13 日	2016 年 4 月 28 日	2016 年 10 月 11 日
公募締切	2014 年 12 月 22 日	2015 年 1 月 29 日	2015 年 6 月 25 日	2015 年 12 月 10 日	2016 年 6 月 30 日	2016 年 12 月 12 日
コンソーシアム 内公開ヒアリング	2015 年 1 月 23 日	2015 年 3 月 5 日	2015 年 8 月 26 日	2016 年 2 月 29 日	2016 年 8 月 26 日	2017 年 2 月 1 日
採用者 計	4 [2]	4 [2]	4 [1]	4 [4]	4 [4]	3[1](予定)

(括弧内の数)→女性限定公募の件数 (内数)

[括弧内の数]→採用者の内の女性の数 [内数]

若手教員の公募について、本コンソーシアムでは、実施機関(広島大学、山口大学、徳島大学)がそれぞれ事業計画及び大学の計画に従った募集分野・人数・職階の候補を提案し、コンソーシアム運営協議会において決定した後、コンソーシアムで公募、選考を行い、実施機関で採用を行っている(本スキームで採用された教員を、以下コンソーシアム教員と記す)。

コンソーシアム教員の公募にあたっては、実施機関側にはその職に求める条件として、テニユアトラック制、年俸制での処遇を求めている。また、各実施機関内での早期定着、安定的な研究環境の確保、雇用後の流動性の担保、より素早く各大学で実力を発揮できる環境を整える、などの観点から、各大学の制度に則った上で、いわゆる定員枠の教員と可能な限り同じ取扱いを求めている。そのため、例えば広島大学では、コンソーシアム教員について、特殊な職階を設定せず、全て(通常の)助教として公募、採用している。

コンソーシアム教員となるものについては、以下の点を共通した要件としている。

・博士号を取得後 10 年以内(※1)又は同等程度の研究経歴(※2)を有し、かつ、40 歳未満(※3)である若手研究者(ただし、臨床研修を課せられた医学系分野においては 43 歳未満)

※1 産前・産後休暇および育児休暇を取得した方は、その取得期間について 10 年を越えることが可能。

※2 博士課程に標準年限以上在学し、所定の単位を修得した上、退学した(いわゆる「満期退学者」)で、退学後 10 年以内の研究者。

※3 文部科学省の平成 26 年度科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業による補助対象のため、雇用対策法施行規則第 1 条の 3 第 1 項第 3 号ニに該当するとして実施。

- ・英語によるコミュニケーション能力を有すること。
- ・日本語又は英語による学部・大学院生への授業及び研究指導ができること。
- ・科学技術イノベーションの実現に向けて積極的な研究活動を行う意志をもつこと。

これらの共通する要件に加え、各機関・分野で必要と認められた要件については、特有事項としてこれを加えている。

公募の実施にあたっては、運営協議会での決定を受けて、コンソーシアム実行委員会と事務局がこれにあたる。第1期(平成26年度後期)、第2期(平成27年度前期)などの試行を経て、全体の公募スキーム、公募要領の文面、公募にあたって各機関と調整する点等もほぼ固まり、コンソーシアム型による公募システムとして確立した。

公募にあたっては、世界中から優秀かつ多様な人材を呼び込むために、様々な工夫を凝らして実施している。女性教員の少ない分野では、各実施機関に対して女性限定公募を行うよう積極的に働きかけた。その結果、第5期(平成28年度後期採用)までの20件の公募のうち10件を女性限定公募として行っている。また、女性限定公募でない場合も、公募要領上に女性研究者への支援を明記し、また各機関の環境整備状況を明記することにより、女性への積極的な応募を促している。同様に、外国人研究者を歓迎することを募集要項に表記し、海外にも積極的に情報を展開している。また、公募要領上では、各機関で共通する内容については、可能な限り詳細な情報を掲示すると共に、HPなどを紹介し、外国在住者でも応募しやすくなるよう心掛けた。さらに、国内外から寄せられた問い合わせに対しては、事務局で可能な限り早期かつ丁寧な対応を行った。従来の教員公募においては、各機関の人事担当部署及び各公募の責任教員が直接個別に対応しており、特に国際公募では大きな負担となっているが、これをコンソーシアムとして一括で対応し、また内容をQ&Aとして公開することで、応募者、事務双方の負担の軽減を図っている。

応募書類および公募要領の文面は、文部科学省「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業を実施した際の知見、及び、第1期公募での試行とフィードバックの上、ほぼ現在の形となった。応募にあたっては、第2期以降は以下の内容を共通して求めている。

- ①履歴書
- ②業績リスト※ 主要論文(5編以内)のコピーを添付すること。
- ③これまでの研究概要(A4 4ページ以内、図表含む)
- ④本コンソーシアムにおける研究計画(A4 4ページ以内、今後5年間の研究計画)
- ⑤科学技術イノベーションへの貢献に向けた抱負
- ⑥推薦者リスト(推薦者の所属、氏名、電話番号、電子メールアドレスを2名分記載)

応募者は、これらの内容を、コンソーシアムが指定する様式(フォーム)に記入して提出する。理工系から人文社会系まで、幅広い分野からの応募にあたっては、また選考にあたっては、過不足ない内容となっている。なお、応募書類は英語又は日本語で作成することができるが、用いる言語で内容に差がないよう、英日で共通したフォームを用いている。また、世界中から幅広い人材の応募を得るために、応募はすべて電子メールで受け付けた。

公募情報は、JREC-IN Portal、コンソーシアムHP、各大学HP等において英語及び日本語で公開し、公募を実施した。その公募期間は可能な限り2か月以上となるように設定している。

選考にあたっては、コンソーシアムにおける応募の取りまとめの後、各公募分野における一次選考を経て、コンソーシアム内公開ヒアリングによる二次選考を行っている。その後、コンソーシアム内公開ヒアリングによる結果を受け、審査委員会が最終候補者の推薦を運営協議会に対して行い、コンソーシアム運営協議会が採用候補者を決定する。その結果を各大学に通知し、各大学が採用手続きを進める形で行った。

二次選考のコンソーシアム内公開ヒアリングは、運営協議会メンバーを中心とした各大学の理事クラスにより面接形式で実施した。応募者はヒアリングにあたって、日本語又は英語の希望する言語を選択することができる。審査にあたるメンバーは、1分野につき6名であり、その中には他大学の理事が少なくとも2名入るため、他分野、他機関の高い学識経験者が自然と入る構成となっている。

また公開ヒアリングでは、コンソーシアム内の各機関からの参加者が(審査会への出席はできないものの)質疑への参加、コメントを付すことができるようになっている。これにより、中四国地方に新たに呼び込む優秀な若手研究人材(=コンソーシアム教員)を、採用前からコンソーシアム内の他機関も知ることができる貴重な機会となっている。現在までのところ、具体的なラボローテーションやクロスアポイントメントにつながった直接的な事例はないが、今後の共同研究に向け相談を開始する事例も発生している。従来の大学教員採用においては、他機関がその人材を知る機会がなく、別途機会を設けなければ地域連携が進まなかったことを踏まえれば、優秀な若手研究人材を積極的に活かすための仕組みを構築できたとと言える。

これらの結果、第5期(平成28年度後期採用)までに、全採用教員20名のうち半数以上に当たる13名の女性教員の採用につながった。また、外国籍教員は1/4である5名となった。コンソーシアム教員は集団として、研究分野のみでなく、ジェンダー、国籍などで多様なメンバーで構成されていると言える。コンソーシアム教員は、各分野での優秀な教員候補であるのみならず、多様な人材に対してリーダーシップを発揮しなければならない将来の産学官のリーダー候補であるが、本コンソーシアムではその目的に沿った人材を、公正なシステムに基づいて採用できている。

○第4期公募(平成28年度前期):

- ・JREC-IN、コンソーシアムHP、各大学HPにて英語及び日本語で公募。各分野の学会HP、メーリングリスト等で周知。果樹園芸学分野では、海外求人サイト(Academic Keys)の使用を試行。
- ・①2015年10月13日公募開始(果樹園芸学・有機合成薬学)、2015年12月10日締切(有機合成薬学は応募者少数のため12月28日まで締切延長を実施)、②2015年11月12日公募開始(スポーツ科学・食品科学)、2015年12月21日締切。2016年2月29日最終選考(4分野)、2016年4月1日以降採用。(4月1日採用3名、9月1日採用1名)
- ・公募分野:果樹園芸学(山口大学・女性限定公募)、有機合成薬学(徳島大学)、スポーツバイオメカニクスあるいはスポーツ栄養学(広島大学・女性限定公募)、食品科学(広島大学)
- ・4分野合計で20名の応募(うち女性14名)

○第5期公募(平成28年度後期)

- ・JREC-IN、コンソーシアムHP、各大学HPにて英語及び日本語で公募。各分野の国内学会HP、メーリ

ングリスト等においても周知。

- ・2016年4月28日公募開始、2016年6月30日締切、半導体・ナノテクノロジー分野のみ2016年7月8日まで募集期間延長。2016年8月26日最終選考、2016年10月1日以降(平成28年度内)採用(11月1日採用予定1名、2017年2月1日採用1名、3月1日採用予定2名)
- ・公募分野:文化人類学、物性科学、半導体・ナノテクノロジー、大気海洋循環制御論
(すべて広島大学・女性限定公募)
- ・4分野合計で34名の応募を得た(うち女性32名)

○第6期公募(平成29年度前期)

- ・JREC-IN、コンソーシアムHP、各大学HPにて英語及び日本語で公募。各分野の国内学会HP、メーリングリスト等においても周知。
- ・2016年10月11日公募開始、2016年12月12日締切、2017年2月1日最終選考、2017年4月1日以降採用予定。
- ・公募分野:メタボローム栄養学(徳島大学)、生理化学(広島大学)、放射線防護・線量評価(広島大学・女性限定公募)
- ・3分野合計で7名の応募を得た(うち女性2名)

3-2. コンソーシアム教員の着任状況

公募分野	所属先	氏名	着任日
第1期			
欧米文学語学・言語学	広島大学 大学院文学研究科	松本 舞	2015年3月1日
マクロ経済学	広島大学 大学院社会科学研究科	中川 雅央	2015年3月1日
反応性機能分子の化学	広島大学 大学院理学研究科	Shang Rong	2015年3月1日
宇宙科学	広島大学 大学院理学研究科	岡部 信広	2015年3月1日
第2期			
病態制御学講座(獣医衛生学分野)	山口大学 共同獣医学部	渋谷 周作	2015年4月1日
整形外科学	広島大学 大学院医歯薬保健学研究院	中島 祐子	2015年4月1日
細胞生物学もしくは発生生物学	山口大学 大学院医学系研究科	原 裕貴	2015年6月1日

水産生物学	広島大学 大学院生物圏科学研究科	若林 香織	2015年7月1日
第3期			
家畜繁殖学	広島大学 大学院生物圏科学研究科	星野 由美	2015年11月1日
地球環境計画学	広島大学 大学院工学研究院	Lam Chi Yung	2015年11月1日
老年看護学	広島大学 大学院医歯薬保健学研究院	梶原 弘平	2016年2月1日
家畜繁殖学	徳島大学 生物資源産業学 部(仮称)設置準備室	谷原 史倫	2016年2月1日
第4期			
果樹園芸学	山口大学 大学院創成科学研究科	金 貞希	2016年4月1日
有機合成薬学	徳島大学 大学院医歯薬学研究部	Karanjit Sangita	2016年4月1日
食品科学	広島大学 大学院生物圏科学研究科	Kumrungsee Thanutchaporn	2016年4月1日
スポーツバイオメカ ニクスあるいはスポ ーツ栄養学	広島大学 大学院理学研究科	緒形 ひとみ	2016年9月1日
第5期			
物性物理	広島大学 大学院生物圏科学研究科	真木 祥千子	2016年11月1日
大気海洋循環制御 論	広島大学 大学院生物圏科学研究科	岩本 洋子	2017年2月1日
半導体・ナノテクノ ロジー	広島大学 大学院先端物質科学研究科	水川 友里	2017年3月1日
文化人類学	広島大学 大学院総合科学研究科	栗田 梨津子	2017年3月1日

3-3. コンソーシアム教員の育成

3-3-1. 自立的な研究環境確保について

コンソーシアムを通じた公募により採用された若手研究者は、基本的には各機関のいわゆる定員内の助教（テニュアトラック制）として採用されている。これにより、外部資金雇用の若手研究者等と比較し、各段に安定した身分と共に、研究内容・研究場所の自由を与え、安定性と流動性を同時に満たしている。

具体的には、テニュアトラック制の助教として採用されることで、まず任期中の自立的な環境を得ると共に、業績に応じて将来の安定した職が担保されている。また、特定のプロジェクト等に従事していないため、自身の知識・経験に則り研究費を獲得し、その外部資金等により研究を自律的に責任をもって実施することができている。さらには、年俸制で雇用されることで、退職金や諸手当等において、異動することの不利益を被ることがない。

また、通常の教員としての取扱いをコンソーシアムとして各機関に強く求めている。例えば広島大学ではコンソーシアム教員は、教育研究基盤経費（いわゆる校費）の面においても、他の助教と同じ取り扱いを受け、平成 27 年度は一人当たり約 50 万円を支給されている。これにより、本来の補助金制度で求められる、「自立的な研究活動がまず存在し、そこに対する補助」という形式を名実ともに整えた。これに加えて、本事業からのスタートアップ経費の支出により、真に自立的な研究環境の確保を実現できている。

研究状況については、定期的なコンソーシアムとしての確認として、四半期毎に研究エフォートの報告を受け、また各年度の評価で実情を把握している。また、コンソーシアム教員本人と部局メンターに対して、コンソーシアムメンター・コンソーシアム実行委員会・事務局が随時打ち合わせを行い、細かく状況を把握し、必要に応じて所属する部局長等との相談も実施している。コンソーシアム教員本人と部局メンターだけであれば、研究と講義負担、事務負担等でバランスを取ることが難しい事も懸念されるが、適宜コンソーシアムが外部から関わることで、研究エフォートの確保、研究と教育のバランス、本人のキャリア段階に応じた（部局での）仕事の割り振り等を目指している。

3-3-2. コンソーシアム教員研修について

コンソーシアム教員の各人は、各大学で通常の助教として採用されるため、各大学で新任教員に対するファカルティディベロップメント（FD）などを通じて、助教としての基礎力を身に付けることになる。しかし、各大学における FD プログラム自体も試行を続けている段階であり、これを補うべき部分もある。特に、コンソーシアム教員には、産学連携等を通じ幅広い舞台上で活躍する能力、異分野と連携する能力が求められている。これらの能力は、将来的には大学教員に通常備わっているべき能力と思われるが、現時点ではこの能力開発に向け別に取り組む必要がある。

また、今後もコンソーシアム教員は増え続け、5 年度目には 40 名となる見込みである。人数が増えた中でも、教員のキャリアアップに資するためには、各部局・機関の研修の仕組みを積極的

に活用することが欠かせない。そこで、コンソーシアムとしては、教員の状況をモニタリング（評価）し、必要に応じて情報提供・指導を行い、また FD 等と相補的な研修を実施する、無駄の少ない継続的な仕組みの構築を目指している。

教員研修については、まず各機関でのある程度の研修の実施を前提としている。例えば広島大学では、教育の質保証に資するため、新任教員に対して、教員として働くために知っておくべき基本的知識の獲得やスキル向上の機会を提供することを目的として、平成 25 年 10 月以降新たに着任する教員に対して、「新任教員研修プログラム」の 20 時間以上の受講を必須化し、平成 26 年 4 月からプログラムの運用を開始している。広島大学に在籍するコンソーシアム教員は現在まですべてこの対象者であり、随時、「新採用教職員研修」や「大学教育論」などを通年で随時受講している。

それらの FD をたて糸として、その内容を補うもの、よこ糸となる内容をコンソーシアムとしての主な対象として、コンソーシアム教員研修として企画・実施している。コンソーシアムが主催するものについては特に、教員キャリア初期の研究者向けに、複数大学・複数分野の教員が参加することにより、効果が高まるよう企画した。またこれらの研修については、日本語に不慣れなコンソーシアム教員が積極的に参加できるようにするため、英語で実施している。これは特にコンソーシアム（事務局）にとって負担も大きいのが、大学の国際化に向けても非常に重要な試行であり、今後もこれを続ける。また、別の組織が主催するセミナー等についても、その目的が合致するものについて、コンソーシアムが共催となり、コンソーシアム教員への多様な研修機会を提供している。

平成 28 年度

○The 2nd HIRAKU Consortium Researchers' Conversations

(第 9 回 HIRAKU コンソーシアム教員研修) (2016 (平成 28) 年 4 月 21 日(木))

コンソーシアム教員が中心となる、英語による定期的なセミナー開催の第二回目として、コンソーシアム教員である若林香織助教および星野由美助教がオーガナイザーとなり、事前の研修内容の準備、アンケート実施、当日の司会進行等を行った。研修当日は、事前アンケートを基に、今後の教員が主体となって開催するセミナーで取り上げたい議題や、名称、次回のオーガナイザー選定を議論。結果、議題は担当オーガナイザーで決定することに



し、名称は「HIRAKU Consortium Researchers' Conversations」となった。その後、広島大学サイエンス・コミュニケーターである Caitlin Devor 氏より、一般人にも分かりやすい、効果的なプレゼンテーションの仕方の講義を受け、意見交換等が行われた。

○The 3rd HIRAKU Consortium Researchers' Conversations
(第 10 回コンソーシアム教員研修) (2016(平成 28)年 6 月 29 日(水))

コンソーシアムを通じて採用した教員によって、企画・運営されるセミナーの第3回目を開催した。広島大学の人文社会科学系大学院に所属する松本舞助教、中川雅央助教がオーガナイザーとなり、それぞれの研究内容をプレゼンし、人文社会科学系の分野に対する自然科学系の教員の意見を知ることができる、良い機会となった。他大学からも、TV 会議システムでの参加を可能とし、コンソーシアム内で参加しやすい環境を整備した。



○未来を拓く地方協奏プラットフォームテニュアトラック教員による生物圏科学研究科共同セミナー「陸・海・食のサイエンス」(2016(平成 28)年 7 月 11 日(月))

広島大学大学院生物圏科学研究科 主催

コンソーシアムを通じて採用した専門分野の異なる 3 名の広島大学生物圏科学研究科所属の女性教員が自主企画したセミナー。星野由美助教(家畜生殖学)「卵子を知り、卵子を活かす」、若林香織助教(水産増殖学)「水産分野における海洋未利用生物資源の有効利用」、KUMRUNGSEE, Thanutchaporn 助教(分子栄養学)「Let Food be Your Medicine」とそれぞれ題したプレゼンテーションを行い、また他のコンソーシアム教員も参加した。専攻の垣根を越えて学部生にも分かるように話をするすることで、互いの研究への理解を深め、交流することができた。

○The 4th HIRAKU Consortium Researchers' Conversations
(第 11 回コンソーシアム教員研修) (2016(平成 28)年 8 月 19 日(金))

徳島大学の谷原史典助教、Karanjit Sangita 助教の研究内容についてプレゼンテーションが行われ、コンソーシアム教員相互の研究について理解を深めることができた。プレゼンテーション終了後、徳島大学角村法久特任助教(研究支援・産学官連携センター)より、「科研費の種目及び種目の改正について、英語による公募スケジュール」の説明が行われ、外国籍の教員の「科研費」への認識が深まった。また、科研費申請の呼びかけに、コンソーシアム教員の意欲が高まった。

○英語による科研申請書作成に関するセミナー(2016(平成 28)年 8 月 22 日(月))

広島大学 学術室 研究企画室 主催

広島大学研究企画室 URA による英語の科研費セミナーが行われ、外国籍の教員にとって、躓きとなりやすい科研費の基礎的事項について説明を行い、理解を進めることができた。セミナーに続き行われた質疑応答・個別相談により、スムーズに科研費研究計画調書を作成するノウハウを身に付けることができた。HIRAKU 事業も共催として、外国籍のコンソーシアム教員が参加するとともに、不参加者には事後、資料や情報の共有を行った。

○”Skill Building workshop for HIRAKU consortium researchers”

(第 13 回コンソーシアム教員研修) (2016(平成 28)年 11 月 10 日(木))

広島大学 学術室 研究企画室 主催

広島大学サイエンス・コミュニケーターである Caitlin Devor 氏を講師として、「ジャーナリストと成果を共有する方法」に関するスキル・ビルディング・ワークショップを開催した。研究についてシンプルで魅力的な方法で紹介することで、多くの人々の理解と共感を呼ぶことを学んだ。研究におけるコミュニケーション能力の向上が計れた。

○The 5th HIRAKU Consortium Researchers’ Conversations

(第 12 回コンソーシアム教員研修) (2016(平成 28)年 12 月 16 日(金))

広島大学 ライティングセンターとの共催

Karen Carter 氏(広島大学 ライティングセンター ライティングフェロー)を招き、「英語の効果的なプレゼンテーション」と題して、異分野の研究者・産業界に対しても容易に理解してもらえるような手法について講義を受け、質疑応答を通して基礎的スキルを身に付けた。オーガナイザーは広島大学梶原弘平助教、中島祐子助教が務めた。

○男女共同参画意識啓発セミナー 「どんな人生を歩みたいですか？」

(第 14 回コンソーシアム教員研修) (2016(平成 28)年 12 月 16 日(金))

広島大学女性研究活動委員会 主催

「21 世紀を生きるあなたへ: 人生いつでも起死回生一笑う門には福来る」と題した、国立医薬品食品衛生研究所・薬理部部長 関野祐子氏の講演、文部科学省・女性研究者支援事業を通じて採用された広島大学の女性教員 6 名によるリレートークが行われた。

また、女性研究者によるポスター発表に、コンソーシアム教員のうち、Shang Rong 助教、中島祐子助教、若林香織助教、星野由美助教、Kumrungsee Thanutchaporn 助教、緒形 ひとみ助教が参加し、普段、互いに話すことのない異分野の研究者と情報交換を行い、研究する姿勢等大いに刺激を受けたほか、コンソーシアムの取組等についても広くアピールすることができた。

○平成 28 年度広島大学全学 FD 「研究力強化概論」

(第 15 回コンソーシアム教員研修) (2016(平成 28)年 12 月 19 日(月))

広島大学 学術室 主催

昨年に引き続き、大学における研究力が、組織レベル、個人レベルでどのように評価されるのかについて現状理解、理念・目的の共有を目指した。伊神正貫氏(文部科学省 科学技術・学術政策研究所 科学技術・学術基盤調査研究室長)を講師に迎え「科学研究の俯瞰・ベンチマーク- 論文分析から見る広島大学」について講演していただき、大学におけるベンチマーキングについての理解、自らの(組織の)ポジションの自覚を、教員にとっては必須の知識として勧めていただいた。その後、西嶋渉副理事(研究企画担当・広島大学)より「本学の研究力強化に向けた取組」について講義を行った。コンソーシアム教員は大学の新任教員として積極的に出席した。一方、欠席者には情報提供を行った。

○平成 28 年度広島大学全学 FD 「研究マネジメント研修」

(第 16 回コンソーシアム教員研修) (2016(平成 28)年 12 月 20 日(火))

広島大学 学術室 主催

大学教員としての様々な業務と並行して、どのように研究をマネジメントするかについて理解し、またその両立にあたって、様々な支援や順守すべき項目について学ぶことを目標とした。広島大学太田茂副理事(研究企画担当)が「研究室マネジメントについて」と題して講義を行った。続いて、柳原 宏和准教授(広島大学 DR)が「研究キャリアのマネジメントについて」、小左古学高度専門職が「本学の学術支援について」と題して講義を行った。コンソーシアム教員は大学の新任教員として積極的に出席した。

○大学発ベンチャーシンポジウム

(第 17 回コンソーシアム教員研修) (2017(平成 29)年 3 月 6 日(月))

博士人材のキャリア形成の一助として、また大学の研究成果を社会に積極的に還元する一方策として、ベンチャー企業の設立・育成を睨んだシンポジウムを、コンソーシアムを構成する3大学協力して、徳島大学で開催した。

○The 6th HIRAKU Consortium Researchers' Conversations

(第 18 回コンソーシアム教員研修) (2017(平成 29)年 3 月 17 日(金))

オーガナイザーを務める山口大学 渋谷周作助教、原裕貴助教が自身の研究内容についてプレゼンを行い、コンソーシアム教員相互の研究について理解を深めた。

3-3-3. メンター制度

各コンソーシアム教員には、2 人ずつメンターが配置されている。コンソーシアムとしては、企業等における研究経験の豊富な方をコンソーシアムメンターとして雇用し、コンソーシアムからの立場で各コンソーシアム教員に助言・指導を行っている。各コンソーシアム教員とは、より良い研究キャリア構築に向け、半年から一年に一度程度面談を行い、その他得た情報を含め、一年に一度コンソーシアム実行委員会に各教員の状況を報告する。一方で、少数のメンターで各分野の特性にすべて精通することは困難である。そこで、各コンソーシアム教員と同じ専門性を持つ教員(通常は所属する部局の教員)を、部局メンターとした。部局メンターは、分野の特性に応じた指導を行うと共に、身近にいて、日々の指導、助言を行う。この、コンソーシアムメンターと部局メンターの二人で両面から助言、指導を行うことで、コンソーシアム教員は狭い分野に閉じこもらず、また個人的な関係にそれほど左右されず、教員としてのキャリア構築に向けた支援を受けることができる。

これに加えて、コンソーシアム実行委員会と事務局が、コンソーシアム教員に対して適宜情報提供及び相談に応じ、また必要に応じて所属部局への働きかけなども行っている。自立的、主体的に研究を実施するためには、競争的資金の獲得は欠かすことができない。そのため、特に競争的資金については、個々のコンソーシアム教員の専門分野、特性に応じた情報の提供(日本語及

び英語)、競争的研究資金カレンダー(日本語及び英語)の作成及び提供、申請書作成の支援を行っている。こうしたコンソーシアムによる支援と、部局メンターの指導により、着任直後から競争的資金獲得に向けて動くことができ、実際に1名の外国籍教員が、JSPS 研究活動スタート支援を獲得することができた。

3-4. コンソーシアム教員の評価

コンソーシアム教員に対して、着任後1年後、2年後、3年後、4年半後に評価を実施することとしている。なお、3年後は中間評価、4年半後には最終評価があり、各教員の所属部局のテニユア移行審査と連携して行う。

第2期(平成27年度前期着任)

2015(平成27)年4月1日以降に着任した第2期コンソーシアム教員4名に対し、1年目評価を、第1期コンソーシアム教員に準じた形で実施した。

評価時期:2016年11月・12月

評価目的:コンソーシアム教員の活動状況や研究環境等を把握し、必要に応じて助言を与え、状況を改善する。

評価主体:「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」コンソーシアム実行委員会に評価部会を設置し、実施する。評価部会は、実行委員長が必要と認める者、2名以上で構成する。

評価方法:

- ① 以下の内容について、被評価者が資料を作成し、提出。
 1. 原著論文数、研究発表数、共同研究数、外部資金獲得実績、講義数等の定量的な状況報告
 2. 自己評価(自己アピール)、次年度計画の記述
 3. 上記1に関連してそれぞれの具体的な情報の記述
- ② ①で提出された資料を元に評価者が各教員の現状を把握。
- ③ 評価部会による被評価者への面談。
- ④ 評価部会は運営協議会に評価結果を提出。

評価結果のフィードバック:評価結果を被評価者、メンターに通知する。必要に応じて被評価者への新たな支援の検討や、各大学、部局に状況の改善の働き掛けをする。

第3期(平成27年度後期着任)

2015(平成27)年10月1日以降に着任した第3期コンソーシアム教員4名及び2016(平成28)年4月1日に着任した第4期コンソーシアム教員2名に対し、1年目評価を、第1期コンソーシアム教員に準じた形で実施。

評価時期:2017年2月・3月

4. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム

4-1. 長期インターンシップ生の募集

イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラムでは、理工農系、医療系、人文社会系の枠組みにとらわれず、若手研究者が異なる領域にも果敢に挑戦し、社会を変革する意識と情熱を持った人材を育てることを目指している。その一環として、若手研究者が実際の企業や社会の課題解決に貢献しつつ、実践的な能力の養成とキャリアオプションの拡大を図ることを目的として、長期インターンシップ派遣制度を設けている。

コンソーシアムとして共通の公募要領を作成し、運営協議会で承認の後、コンソーシアム全体として公募を開始した。

4-1-1. 第4期（平成28年度前期）

募集期間：2016(平成28)年4月1日(金)～2016(平成28)年7月29日(金)

募集対象：（代表実施機関）広島大学、（共同実施機関）山口大学、徳島大学、（連携機関）岡山大学、島根大学、鳥取大学、愛媛大学、香川大学、高知大学、鳴門教育大学、岐阜大学、県立広島大学、広島市立大学、広島国際大学、立命館大学に在籍中の博士課程（博士課程前期を除く。）の学生あるいは博士課程（博士課程前期を除く。）修了後5年程度以内の任期付研究者。

4-1-2. 第5期（平成28年度後期）

募集期間：2016(平成28)年10月1日(土)～2017(平成29)年1月31日(火)

募集対象：（代表実施機関）広島大学、（共同実施機関）山口大学、徳島大学、（連携機関）岡山大学、島根大学、鳥取大学、愛媛大学、香川大学、高知大学、鳴門教育大学、岐阜大学、県立広島大学、広島市立大学、広島国際大学、立命館大学に在籍中の博士課程（博士課程前期を除く。）の学生あるいは博士課程（博士課程前期を除く。）修了後5年程度以内の任期付研究者。

4-2. 長期インターンシップの派遣実績

第4期（平成28年度前期）※学年は派遣時

	名前	性別	国籍	所属	学年／職名	派遣先	派遣期間	審査状況
1	大矢綾香	女	日本	立命館大学 大学院理工学研究科 環境都市専攻	D2	株式会社建設技術 研究所	2016/4/1～ 2016/6/3	広島大学 平成27年6 月審査
2	澤井悦郎	男	日本	広島大学 グローバルキャリア デザインセンター (大学院生物圏科 学研究科生物資 源科学専攻)	広島大学特別 研究員	Museum of New Zealand Te Papa Tongarewa (ニュー ジーランド)	2016/5/6～ 2016/7/6	広島大学 平成28年1 月審査
3	Tariq Muhammad Rizwan	男	パキスタン	広島大学 大学院工学研究 科 システムサイバネ ティクス専攻	D1	日本電気株式会社 テータサイエンス研 究所	2016/6/1～ 2016/7/29	広島大学 平成28年1 月審査
4	山下正太郎	男	日本	広島大学 大学院工学研究 科 機械物理工学専 攻	D3	Centre of Advanced Materials Joining (カナダ)	2016/6/1～ 2016/8/29	広島大学 平成28年2 月審査
5	Mrinla Singh	女	ネパール	広島大学 グローバルキャリア デザインセンター (大学院国際協力 研究科教育文化 専攻)	広島大学特別 研究員	Organic Trust Australia -Research and Education (オ ーストラリア)	2016/6/3～ 2016/8/13	広島大学 平成28年2 月審査

6	谷口純一	男	日本	徳島大学 大学院先端技術 科学教育部 知的力学システム 工学専攻	D2	株式会社ニタコンサル タント	2016/6/10～ 2016/8/9	徳島大学審 査
7	世良文香	女	日本	広島大学 大学院理学研究 科 化学専攻	D2	TDK 株式会社 技 術本部 材料開発 センター	2016/9/26～ 2016/12/9	広島大学 平成 28 年 5 月審査

第 5 期（平成 28 年度後期） ※学年は派遣時

	名前	性別	国籍	所属	学年 / 職名	派遣先	派遣期間	審査状況
1	高橋 誉文	男	日本	広島市立大学	協力 研究員	マツダ株式会社	2016/10/3～ 2016/12/2	広島大学 平成 28 年 8 月審査
2	大神 隆幸	男	日本	山口大学 大学院理工学研 究科	D1	自然科学研究機構 国立天文台	2016/10/3～ 2016/12/2	山口大学審 査
3	宮武 由美子	女	日本	徳島大学 大学院栄養生命 化学 教育部人間栄養 生命科学専攻	D1	理化学研究所	2016/10/3～ 2016/12/28	徳島大学審 査
4	久野 敬司	男	日本	岐阜大学 大学院工学研究 科 環境エネルギ ーシステム専攻	D2	株式会社デンソー	2016/10/17 ～ 2016/12/27	広島大学 平成 28 年 6 月審査
5	上田 浩晶	男	日本	広島大学 大学院理学研究 科生物科学専攻	D3	国立研究開発法人 農業・食品産業技術 総合研究機構 近 畿中国四国センタ ー	2016/10/24 ～ 2016/12/28	広島大学 平成 28 年 7 月審査

6	吉利 怜奈	女	日本	広島大学 グローバルキャリア デザインセンター (大学院国際協力 研究科開発科学 専攻)	広島 大学 特別 研究員	株式会社三菱総合 研究所	2016/11/1～ 2017/1/31	広島大学 平成 28 年 8 月審査
7	JAKKAMPUDI SATISH	男	インド	広島大学 大学院理学研究 科化学専攻	D2	東ソー株式会社	2016/11/24 ～2017/1/31	広島大学 平成 28 年 7 月審査
8	曹 伴鵬	男	中国	山口大学 大学院理工学研 究科	D3	山口県産業技術セ ンター	2016/12/12 ～2017/2/10	山口大学審 査
9	陳 徳超	男	中国	山口大学 大学院東アジア研 究科	D1	近畿日本ツーリスト 株式会社	2016/12/12 ～2017/2/10	山口大学審 査
10	MASKEY BIJAN	男	ネパール	広島大学 大学院国際協力 研究科教育文化 専攻	D2	西川ゴム工業株式 会社	2017/1/16～ 2017/3/15 (予定)	広島大学 平成 28 年 10 月審査
11	飯 島 遼平	男	日本	広島大学 大学院生物圏科 学研究科生物機 能開発学専攻	D2	サッポロホールディ ングス株式会社	2017/1/16～ 2017/3/30 (予定)	広島大学 平成 28 年 7 月審査
12	LIU LINYUN	女	中国	広島大学 大学院生物圏科 学研究科	研究員	独立行政法人 酒 類総合研究所	2017/1/18～ 2017/3/17 (予定)	広島大学 平成 28 年 10 月審査
13	古 川 善也	男	日本	広島大学 大学院教育学研 究科教育人間科 学専攻	D2	ベネッセ教育総合 研究所	2017/1/25～ 2017/3/24 (予定)	広島大学 平成 28 年 11 月審査
14	照 喜 名 歩	男	日本	広島大学 グローバルキャリア デザインセンター (大学院理学研究 科物理科学専攻)	広島 大学 特別 研究員	ベネッセ教育総合 研究所	2017/1/25～ 2017/3/24 (予定)	広島大学 平成 28 年 11 月審査

5. 成果報告会

5-1. 第3回成果報告会

日時:2016(平成28)年7月22日(金) 13:30~18:00

場所:山口大学工学部 E 講義棟 E22 講義室(常盤キャンパス)

プログラム:

13:30 開会挨拶 堀 憲次(山口大学理事・副学長(研究担当))

13:45 基調講演 西川 一男氏

(マツダ(株)技術研究所先進ヒューマン・ビークル研究部門
総括研究長兼主席研究員)

14:45 イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム :
インターンシップ実施対象者による報告

末廣 優加 鳥取大学大学院連合農学研究科 D2 (受入先:(独)酒類総合研究所)

富本 悠公 山口大学大学院理工学研究科 D1 ▶ (株)医療福祉工学研究所 代表取締役 平光 誠氏

胡 文強 徳島大学大学院先端技術科学教育部 D1 ▶ (株)インフォマティクス大阪営業所 魚住 政充氏

大矢 綾香 立命館大学大学院理工学研究科 D2 ▶ (株)建設技術研究所 (代読)

伊藤 悠真 広島大学大学院工学研究科 D2 (受入先:(株)IHI基盤技術研究所)

西津 卓史 広島大学大学院工学研究科 D2 ▶ (株)IHI基盤技術研究所 米倉 一男氏

16:15 テニューアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム:

テニューアトラック教員による報告

渋谷 周作 山口大学共同獣医学部 助教

16:45 パネルディスカッション タイトル:将来の可能性を拓ける博士後期課程

モデレータ:兵頭 正幸 (山口大学元キャリアパス形成支援室副室長・教授)

パネリスト1:長田 一美 (山口大学大学研究推進機構 産学公連携センター・コーディネーター)

パネリスト2:山口 徹氏 ((株)TS テクノロジー・社長)

パネリスト3:鈴木 榮一郎 (広島大学グローバルキャリアデザインセンター・客員教授)

パネリスト4:西川 一男氏 (マツダ(株)技術研究所先進ヒューマン・ビークル研究部門 総括研究
長兼主席研究員)

18:00 閉会挨拶 玉田 昌宏 (徳島大学研究・社会連携部 産学連携・研究推進課長)

17:15~19:30 情報交換会





未来を拓く地方協奏 プラットフォーム 第3回成果報告会

～HIRAKUから博士後期課程への誘(いざな)い～
日時：平成28年7月22日(金) 13:30～18:00

参加費	無料
申込み	氏名、所属を記載のうえ、E-mailにてお申し込みください。(平成28年7月19日(火)締切) 【申込み先】 conso@yamaguchi-u.ac.jp
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ●開会挨拶 山口大学 ●基調講演 マツダ株式会社 ●インターンシップ体験報告 広島大学、山口大学、高松大学、徳島大学、立命館大学 (博士後期課程学生) ●ニューアトラクタ 山口大学 西谷和哉 教員新任報告 ●パネルディスカッション 【テーマ】 将来の可能性を拓げる 博士後期課程
問い合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ●閉会挨拶 徳島大学 未来を拓く地方協奏プラットフォーム 運営事務局 (山口大学内) TEL: 083-933-3255 E-mail: conso@yamaguchi-u.ac.jp

会場：工学部E2講義室 E22講義室 (山口大学 常盤キャンパス)

HIRAKU

主催：文部科学省 科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業「次世代研究者育成プログラム」 東を拓く地方協奏プラットフォーム

5-2. 第4回成果報告会

日時:2017(平成29)年2月23日(木) 13:30～17:00

場所:徳島大学日垂ホール産学官連携プラザ3階(常三島キャンパス)

プログラム:

13:30 開会挨拶 永田 俊彦 (徳島大学理事・副学長(研究・国際担当))

13:40 基調講演 大畑 淳氏 ((株)大塚製薬工場研究開発センター 鳴門研究所 手術周辺療育研究室リーダー)

14:30 イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム:

インターンシップ実施対象者による報告

Tariq Muhammad Rizwan 広島大学大学院工学研究科 D1

▶ 日本電気(株)データサイエンス研究所 主席研究員 杉山 昭彦氏

上田 浩晶 広島大学大学院理学研究科 D3

▶ (国研)農業・食品産業技術総合研究機構西日本農業研究センター グループ長 高田 兼則氏
吉利 怜奈 広島大学グローバルキャリアデザインセンター 特別研究員

▶ (株)三菱総合研究所 ヘルスケア・ウェルネス事業本部 副本部長 チーフ事業開発マネージャー 木田 幹久氏

大神 隆幸 山口大学大学院理工学研究科 D1

- ▶ 自然科学研究機構国立天文台 准教授 中村 文隆氏

谷口 純一 徳島大学大学院先端技術科学教育部 D2

- ▶ ニタコンサルタント(株) 取締役企画兼地域計画部部長
安芸 浩資氏

宮武 由実子 徳島大学大学院栄養生命化学 D1

- ▶ 理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究センター
チームリーダー 土居 久志氏

16:10 質疑応答

16:25 テンユアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム:

テンユアトラック教員による着任報告

KUMRUNGSEE, Thanutchaporn 広島大学大学院生物圏科学
研究科 助教

KARANJIT Sangita 徳島大学大学院医歯薬学研究部 助教

16:55 閉会挨拶 相田 美砂子 広島大学 理事・副学長(大学改革担当)

17:15 情報交換会

HIRAKU 主催: 文部科学省 創発型人材育成推進プログラム(産学連携) 徳島大学
「次世代研究者育成プログラム」推進委員会 実行委員会

未来を拓く地方協奏プラットフォーム 第4回成果報告会

日時: 2017年2月23日(木)
13:30~17:00

会場: 徳島大学 日曜ホール
高学官棟3階3期 徳島市南三軒巻2-1 (第三期キャンパス)

プログラム

13:30 開会挨拶: 永田誠孝 (徳島大学理事・副学長 (徳大 玉田担当))
13:40 歓迎詞: 徳島大学学長 大澤 隆氏
研究開発センター 西内昭彦 学術推進戦略部 佐藤 謙一

14:30 休憩: 10分

14:40 今後の取り組みの方向性 4つの戦略的領域 活用プログラム
◆プラットフォームの発展と発展による報告 (発表10分+企業講演5分) 予定
(1) TARIQ Muhammad Aripuan (広島大学D1) / 参入機関: 日本株式会社アークプロセス研究所
(2) 上田 浩福 (広島大学D3) / 参入機関: 株式会社電機達人 産学: 食品産業振興会 産学連携
高田工業振興会
(3) 清利 博康 (広島大学 特別研究員) / 参入機関: 株式会社三都綜合研究所
(4) 次野 隆幸 (山口大学D1) / 参入機関: 目的科学研究所 徳島県立徳島
(5) 谷口 純一 (徳島大学D2) / 参入機関: ニタコンサル(株) 徳島支店
(6) 宮武 由実子 (徳島大学D1) / 参入機関: 理化学研究所 ライフサイエンス技術基盤研究センター
*参加費無料

16:10 閉会挨拶: 15分
16:25 テンユアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム
*ニタコンサル(株)による報告 (発表10分+質疑応答5分)
(1) KUMRUNGSEE, Thanutchaporn (広島大学)
研究テーマ: Why is Vitamin B6 good for your hair?
(2) KARANJIT Sangita (徳島大学)
研究テーマ: Development of active and stable catalyst
for nickel bond transformations in organic synthesis
16:55 閉会挨拶: 次野隆幸氏 (広島大学)
17:15 情報交換会: 徳島大学工業各科1 徳島市日野

■参加費: 無料
■申込方法: 氏名・所属、情報交換会参加の有無(1,000円程度)を
ご記入の上、E-mailにて、お申し込みください。
hiraku@tokushima-u.ac.jp
■申込締切: 2017年2月20日(月)

■お問い合わせ先: 未来を拓く地方協奏プラットフォーム 徳島事務局
TEL: 088-656-9759 E-mail: hiraku@tokushima-u.ac.jp



6. DCやPDが積極的に関与する取組

6-1. 未来博士3分間コンペティション2016

大学院博士課程後期の学生が、3分間の限られた時間内に自身の研究ビジョンや魅力を、高校生にもわかるように伝える。学生のコミュニケーション力の向上を図ると同時に、社会における博士人材と博士研究に対する肯定的な理解の向上につながる。

日時:平成28年9月24日(土)

10:00~17:00 (参加者:236名)

場所:東広島芸術文化ホール くらら 小ホール

プログラム:

10:00 開会式 野地 澄晴 (徳島大学長)

10:05 未来を拓く! おもしろ研究最前線

- ・「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の紹介
相田 美砂子(広島大学 理事・副学長(大学改革担当))
- ・「最新天文学が明らかにする“ダーク”な宇宙」
岡部 信広(広島大学学術院(大学院理学研究科 助教))
- ・「クラゲを使ってエビを増やす」
若林 香織(広島大学学術院(大学院生物圏科学研究科 助教))

10:30 「3分間で未来を拓く! プレゼンテーション(日本語部門)」(博士課程後期学生)

13:15 「3分間で未来を拓く! プレゼンテーション(英語部門)」(博士課程後期学生)

14:35 音楽を科学する~作曲はインスピレーションだけじゃない~

【同時開催】「1枚で未来を拓く! ポスターセッション」(高校生)

16:05 審査発表・表彰

17:10 閉会式 堀 憲次(山口大学理事・副学長(学術研究担当))

大切なのは、好奇心を持ち続けることだ。
—アルバート・アインシュタイン

The important thing is not to stop questioning.
Albert Einstein

未来の博士たちが、自身の研究のビジョンと魅力を3分間で分かりやすく語ります。皆さんの研究があなたの好奇心をかきたてたら、最高の1翼を授けてください!

審査オーディエンス大募集!
対象:一般(中高生・大学生も大歓迎)

参加をご希望の方は、下記URLにて事前登録をお願いします。
申し込みフォーム
▶ home.hiroshima-u.ac.jp/hiraku/form

未来博士3分間コンペティション2016

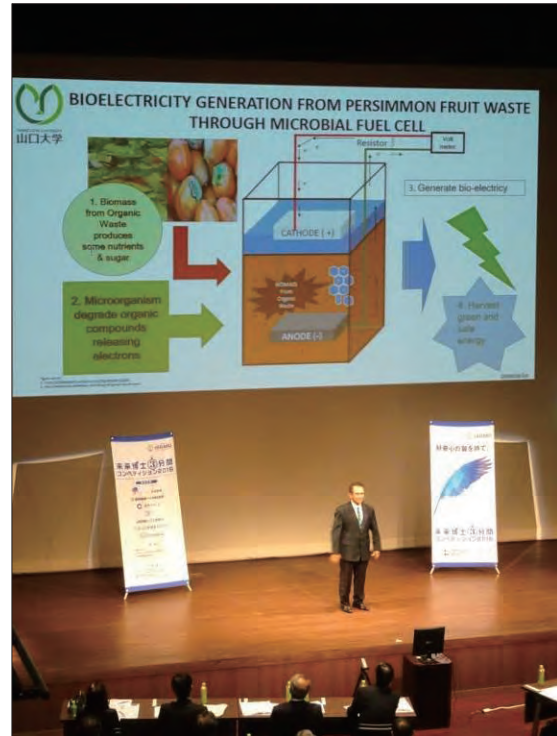
〇と 〇 2016年 **9/24** (土) 10:00~17:00

〇と 〇 東広島芸術文化ホール くらら 小ホール

10:00 開会式
10:05 未来を拓く! おもしろ研究最前線
10:30 3分間で未来を拓く! プレゼンテーション (日本語部門)
12:20 ランチ休憩
13:20 3分間で未来を拓く! プレゼンテーション (英語部門)
15:00 審査を司会する~作曲はインスピレーションだけじゃない~ (同時開催) 1枚で未来を拓く! ポスターセッション
16:20 審査発表・表彰
17:10 閉会式

TEL 082-424-2058

協賛: Otsuka 大塚製薬, 協和発酵バイオ株式会社, 中野テクノス, IBM, 株式会社アビー, 日本経済大学, 広島県教育委員会, JSW 日本製鋼所, ネットセ教育総合研究所, 中野テクノス, maszob, トーレス・エー・シー・インターナショナル



審査結果:

賞名		所属	氏名
最優秀賞		広島市立大学	飯島 聡志
HIRAKU 学長特別賞		山口大学	Tun Ahmad Gazali
グローバル・チャレンジ賞		広島大学	Tunchai Mattana
優秀賞	日本語部門	愛媛大学 (香川大学配属)	赤澤 隆志
	英語部門	広島大学	笹野 哲史
企業賞／大塚賞		広島大学	梅田 香苗
企業賞／協和発酵バイオ賞		山口大学	杉本 至健
企業賞／中外テクノス賞		徳島大学	水野 孝彦
企業賞／IBM賞		県立広島大学	森 ダグラス
企業賞／JSW日本製鋼所賞		山口大学	程 青
企業賞／マツダ賞		広島大学	上川 修平
企業賞／ベネッセ教育総合研究所賞		広島大学	于 君
オーディエンス金賞	日本語部門	愛媛大学	門林 宏和
	英語部門	広島大学	笹野 哲史
オーディエンス銀賞	日本語部門	愛媛大学 (香川大学配属)	赤澤 隆志
	英語部門	山口大学	Tun Ahmad Gazali

6-2. 課題提案型ワークショップ

HIRAKU では、若手研究者と社会をつなぐ観点から、ニーズ・シーズのマッチングに取り組んでいる。平成 28 年度から、新たに課題評価型のニーズに基づいたマッチングの機会を設ける。これにより、若手研究者と企業等との連携を促進させるとともに、若手研究者の課題解決能力の養成やビジネスへの意欲を高める。

テーマ：ビッグデータの利活用について考える

日時：平成 28 年 6 月 2 日(木)13:00～17:40

場所：県立広島大学 サテライトキャンパスひろしま

参加者：計 121 名

内訳 学 外 59 名(内 企業 23 名・団体17 名
・大学 19 名)

学 内 28 名

発表者 16 名

主催者 18 名

プログラム：

13:00 開会挨拶

相田 美砂子 (理事・副学長(大学改革担当))

13:05 基調講演

「ビッグデータ利活用について考える ～次世代 AIと共創的アプローチ～」

本村 陽一氏(産業技術総合研究所 人工知能
研究センター 主席研究員)

13:20 若手研究者シーズ発表

課題提案型ワークショップ
「ビッグデータの利活用について考える」

平成 28 年 6 月 2 日(木) 13:00～17:40

場所：県立広島大学 サテライトキャンパスひろしま
501・502大会議室

参加費：無料

お問い合わせ：
広島大学グローバルイノベーションデザインセンター(若手研究者育成推進課)
TEL 082-424-6213 FAX 082-424-6213
http://www.hiroshima-u.ac.jp/iraku/

	氏名	所属	タイトル
1	鎌田 真	広島市立大学大学院情報科学研究科 情報科学専攻 博士後期課程2年	ビッグデータの学習における Deep Learning の構造学習
2	川端 美穂	広島大学大学院理学研究科物理科学 専攻 博士課程後期1年	Ia 型超新星の観測的研究と画像データ解析
3	岸本 恵子	広島大学大学院医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻 博士課程 4 年	ゲノム情報と精神疾患モデル
4	大塚 裕太	徳島大学大学院薬科学教育部創薬科 学専攻 博士後期課程2年	医薬品結晶多形におけるビッグデータ回帰予測
5	高橋 誉文	広島市立大学情報科学研究科 協力研 究員	分子配列データに対する規則性の抽出法
6	山本 哲也	徳島大学大学院総合科学研究部心身 健康コース 特任講師	多次元データ構造を理解するための機会学習の応用 と、心理学的データの新たな収集方法の提案
7	山本 佑樹	広島大学大学院医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻 博士課程後期1年	マイクロ RNA の発現プロファイリングと疾患診断
8	隅田 姿	広島大学大学院国際協力研究科教育 文化専攻 博士課程後期3年	公共財の公平配分の検討：国際教育援助の事例

9	酒井 達弘	広島市立大学大学院情報科学研究科 情報科学専攻 博士後期課程 1年	気象観測データの利活用—降雨状況分析マップの提案—
10	福井 のり子	広島大学大学院国際協力研究科開発 科学専攻 博士課程後期 1年	交通政策のコミュニケーションにおけるビッグデータ収集の試み

14:20 分科会

以下の企業・行政からニーズ提案いただいた分科会に分かれ、ビッグデータの利活用について話し合いが行われた。

社会のニーズに若手研究者のシーズがどのように応用できるか、という初めての試みでしたが、活発な意見交換が行われ双方にとって刺激となったようです。

- ・株式会社イズミ 「自社の販売データ、顧客データの有効活用」
- ・シグマ株式会社 「自動車業界における検査・計測(ビッグデータ)の活用」
- ・武田薬品工業株式会社 「ソーシャルネットワークの解析による、患者の声の収集と創薬への応用/デバイス・ヘルスケアデータの活用」
- ・日本IBM株式会社 「エネルギーサービスビジネス」
- ・日本たばこ産業株式会社 「ほっとする瞬間をとらえるビッグデータ」
- ・広島県 「ビッグデータ特区に係る規制緩和」
- ・鳥取県 「オープンデータの利活用」

16:20 全体での発表・まとめ

分科会で話し合った内容・アイデアを、別の分科会の参加者に向けて説明

17:20 講評

- ・本村 陽一氏(産業技術総合研究所 人工知能研究センター 主席研究員)
- ・農沢 隆秀氏(国立研究開発法人産業技術総合研究所 副研究センター長)
- ・市村 匠氏(県立広島大学地域連携センター 教授)

17:30 閉会挨拶

江坂 宗春 (広島大学副学長(学生支援担当))

17:45 情報交換会



6-3. ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム (The 13th Nano Bio Info Chemistry Symposium)

融合領域研究の英語による口頭発表で構成するナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウムを開催している。英語による口頭発表をした学生のうち、一般参加者の投票により、The Best Student Presentation Award と Student Award を授与している。

開催日：2016(平成28)年12月10日(土), 11日(日)

場所：広島大学学士会館レセプションホール(東広島キャンパス)

一般講演：30件 (内:学生の発表25)

参加者：80名

学生賞：参加者(学生は除く)の投票により、上位1名にThe Best Student Presentation Awardが、2名にStudent Awardが授与された。

The Best Student Presentation Award(1名)

Kengo Miyamoto (M1)

“Theoretical study on the stacking interaction in B- and Z-DNA”

Student Award(2名)

Masaya Tsujimoto (D2)

“The factors of cesium absorption by rice plants in Fukushima after the nuclear accident”

Souta Saitou (M1)

“Synthesis of boryl-ligated transition metal complexes”

7. コンソーシアム人材セミナー

主に企業の研究開発部署で活躍している方々や人事担当者から、最新の研究開発動向や人材活用の状況を学ぶことを目的としている。

第18回 In広島	2016年 4月19日(火) 14:30～17:00	博士の強みを活かしてビジネスを仕掛ける	(株)リバネス 代表取締役社長 高橋 修一郎 氏
第19回 In広島	2016年 5月13日(金) 14:35～17:00	リーダーシップ開発とイノベーション。 MIマトリクス®でイメージを深める	(株)リクルートマネジメントソリューションズ エグゼクティブプランナー 井上 功 氏
第20回 In広島	2016年 5月20日(金) 14:35～17:00	リーダーシップとコミュニケーション力	(株)オフィスアツツ 代表取締役 西田 篤史 氏
第21回 In広島	2016年 6月7日(火) 14:30～17:00	理系研究者としての経験を活かした金融業界での働き方	野村證券(株) ポートフォリオ・コンサルティング部 課長代理 田中 慎一郎 氏
第22回 In徳島	2016年 6月27日(月) 16:30～18:50	「未来創生博士人材活躍推進」講演・座談会	(株)エマージングテクノロジーズ 代表取締役社長 深澤 知憲 氏 富士電機(株)技術開発本部 安田 圭吾 氏
第23回 in広島	2016年 6月24日(金) 16:30～17:30	原子力規制庁で専門性を生かす	原子力規制委員会 原子力規制庁 安全規制管理官付(PWR担当/併・新型炉等担当) 中桐 裕子 氏
第24回 In広島	2016年 6月29日(水) 14:30～16:30	世界一のクオリティーベーカーリーを目指して ～アンデルセングループ研究開発業務について～	(株)タカキベーカーリー 技術研究部 第二技術研究室長 鍛冶谷 孝 氏
第25回 in広島	2016年 7月25日(月) 14:30～16:30	社会人(研究開発)における人材育成について ～社会において、自分の育成をどうするの?～	マツダ(株) 技術研究所 技監 農沢 隆秀 氏
第26回 in広島	2016年 10月13日(木) 14:30～16:30	「博士でやってみたら？」	大塚製薬(株) 製剤研究所 所長 加藤 雄介 氏
第27回 in広島	2016年 10月25日(火) 14:30～16:30	今こそOrganism<有機主義> ～AIに負けない自分づくりとは?～	(株)ドリーム・アーツ 代表取締役社長 山本 孝昭 氏

第28回 in広島	2016年 11月11日(金) 14:30～16:30	～事例に学ぶ～ 共感と寛容でイノベーションをマネジメントする	(株)リクルートマネジメントソリューションズ エグゼクティブプランナー 井上 功 氏
第29回 in広島	2016年 11月18日(金) 14:35～16:05	IBMに技術戦略とグローバル企業での働き方 –for future leaders–	日本IBM(株)東京研究所 ストラテジー&オペレーションズ 部長 片岡 利枝子 氏
第30回 in山口	2016年 11月24日(木) 15:00～17:00	「目指せ 長州発グローバルイノベーション」	東洋鋼鈑(株) 事業推進室長 岡村 浩 氏
第31回 in徳島	2016年 12月5日(月) 18:00～19:30	イノベーターの論理とパーソナリティ	イノベーション・ファクター研究センター 代表 宮原 諄二 氏
第32回 in広島	2016年 12月8日(木) 14:30～16:30	「製造業における研究開発とそれに求められる才能・技能とは？」	(株)日本製鋼所 広島研究所 主幹研究員 富山 秀樹 氏
第33回 in徳島	2017年 1月23日(月) 17:00～18:30	化学の力量で生命科学に挑戦 合言葉は青年の情熱！	理化学研究所ライフサイエンス技術基盤 研究センター チームリーダー 土居 久志 氏
第34回 in広島	2017年 1月26日(木) 14:30～16:30	オタフクグループ活動紹介、研究・開発事例 ～求める人財と育成～	オタフクソース(株) 取締役 研究室 室長 吉田 充史 氏
第35回 in山口	2017年 2月2日(木) 15:00～17:00	「博士卒のキャリア形成 ～起業という選択～」	(株)カワノラボ 代表取締役 河野 誠 氏

○第18回コンソーシアム人材セミナーin広島

日時:平成28年4月19日(火)14:30～17:00

場所:広島大学 東広島キャンパス 本部棟2階会議室

参加者数:33名

概要:株式会社リバネスは、2002年に理工系大学院生15名が集まり設立しました。約50名の社員のうち半数以上が博士号を持つ研究者集団として、「科学技術の発展と地球貢献を実現する」ことを理念に年間200以上のプロジェクトを手掛けています。これまでのケースを紹介しながら、高度な専門性を持つ博士人材が社会で活躍するために必要とされるスキル(ブリッジ・コミュニケーションスキル)、博士人材ならではの事業創出のための考え方(QPMIサイクル)についてお話しします。

○第19回コンソーシアム人材セミナーin広島

日時:平成28年5月13日(金)14:35~17:00

場所:広島大学 東広島キャンパス 本部棟2階会議室

参加者数:29名

概要:企業の大切な2つの機能に、マーケティング(顧客・市場を創る)とイノベーション(新しい価値を創る)が挙げられます。グローバル化の進展やリーマンショックなどを経て、日本企業はイノベーション創出力が低下しているようにみえます。一方、リーダーシップ開発には、アジェンダ設定(何をするかを決める)とネットワーク構築(人を動かす)の頑強な2軸が存在します。今回は、企業の機能とリーダーの役割について、豊富な事例を示しながら、リーダーシップ開発とイノベーションの関係について、一緒に考えていきます。

○第20回コンソーシアム人材セミナーin広島

日時:平成28年5月20日(金)14:35~17:00

場所:広島大学 東広島キャンパス 本部棟2階会議室

参加者数:56名

概要:リーダーシップは、企業等の組織活動に限らず、様々な場面で必要になります。これまでのテレビやラジオを通じたタレント活動の中で、各界で活躍されている多くの“リーダー”に出会い、多様なキャリアでリーダーシップを発揮されている方々の実像を知る機会がありました。本セミナーでは、これまでに出会った方々のリーダーとしての魅力、姿勢、行動について、様々なエピソードも含めて紹介します。また、リーダーとしてどのように他者を巻き込み、鼓舞しまとめていくのか、他者とのコミュニケーションのあり方についても一緒に考えていきます。

○第21回コンソーシアム人材セミナーin広島

日時:28年6月7日(火)14:30~1700

場所:広島大学 東広島キャンパス 本部棟2階会議室

参加者数:35名

概要:野村證券は、日本で最大の証券会社として、個人投資家向けから機関投資家や上場企業向けに至るまで、幅広く資金運用や調達などの金融サービスを提供している会社です。一見すると研究者とは縁遠い世界で活動している企業と思われがちですが、研究者、特に理系としての素質を生かす場面は極めて多くあります。講師は、博士号を有してはいないものの研究者になるために大学院に進学したという経緯があり、講演では、そのような人間が研究の道ではなく金融という自身の専門とは遠い世界へ行くことを決断した理由や、現在の職務にどのような形で過去の経験が生きているかについてお話したいと考えております。

○第22回コンソーシアム人材セミナーin徳島

日時:平成28年6月27日(月)16:30~18:50

場所:徳島大学 常三島キャンパス 産学官連携プラザ3階

参加者数:46名

概要:深澤氏:3,000人を超える博士人材が利用するキャリア支援サイトを運営し、大学でも博士人材の育成・キャリア支援に関わる深澤氏が、博士人材のキャリアパスの最新事情や活躍状況について紹介し、キャリア開拓のヒントをお伝えします。

安田氏:博士号取得後、産官学にて研究開発に関わる業務に従事した安田氏が、キャリアパスの多様性や研究開発に対する企業と大学の考え方の違いなどを体験に基づいてお話しします。

○第23回コンソーシアム人材セミナーin広島

日時:平成28年6月23日(金)16:30~17:30

場所:広島大学 霞キャンパス 基礎社会医学研究棟2階セミナー室2

参加者数:15名

概要:セミナーでは東日本大震災と東京電力福島原子力発電所事故を受けた原子力規制組織の見直し、及び平成24年に厳しい理念のもとに発足した原子力規制委員会とその事務局である原子力規制庁の各部門とそれぞれの仕事内容について説明されました。また原子力発電所の新規制基準適合性に係る審査会合等の審議はインターネット中継され、資料も事前に公開されているので、誰でもリアルタイムで視聴できる等、高い透明性を確保する取組が紹介されました。

○第24回コンソーシアム人材セミナーin広島

日時:平成28年6月29日(水)14:30~16:30

場所:広島大学 東広島キャンパス 生物圏科学研究科 C206講義室

参加者数:52名

概要:弊社は、世界一のクオリティーベーカリーを目指しています。量の拡大ではなく質の向上を目指し、「品質第一」に、ささやかながら皆さまの食卓に幸せを運ぶお手伝いができますよう努めています。その中で研究部門では、お客様の食生活の向上を実現する、あるいは従来なかった新しい市場を作り上げるための技術開発を行っています。現在行っているのは、安全・安心に関する技術、健康に役立つ技術、製菓製パンの製造技術などに関する研究開発などです。今回の講演では、研究開発に携わる人材に求められるものについて、及び実際の研究内容について紹介させていただきます。

○第25回コンソーシアム人材セミナーin広島

日時:平成28年7月25日(月)14:30~16:30

場所:広島大学 東広島キャンパス 工学部117講義室

参加者数:80名

概要:自動車の技術は、環境と安全を基本として、これまでとは異なる大きな過渡期を迎えています。しかも、その動きは急速です。このような中で、世界のお客様に期待して頂ける車を開発するには、大きな挑戦が必要であり、高度で複雑化する挑戦課題を解決する研究者・開発者の育成がとても重要です。一方で、大学と社会では大きなギャップもあり、仕事の進め方にも違いがあるように思えます。そのような社会とのギャップの中で、自らが「自分をどのように育ててゆくのか」を考えることは大切です。ここでは、これまで進めてきた研究開発における人材育成の考え方や取組を示し、自らが「考えるヒント」を紹介します。

平成28年 7月25日(月)

・セミナー 14:30~16:30 (質疑応答含む)

・会場 東広島キャンパス 工学部117講義室 (B4棟)

講師: 廣沢 隆秀 氏
(マツダ株式会社 技術研究 部長)

申込方法: 1.第25日、2.名前、3.所属、4.学年(職名)を明記して、wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp まで、Eメールにてご連絡ください。 ※ 申込締切: 7月21日(木)

申し込み・お問い合わせ先: 広島大学グローバルイノベーションセンター(広島 東広島 棟) E-mail: wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp TEL: 082-424-4554 URL: http://www.hiroshima-u.ac.jp/wakateyousei/

○第26回コンソーシアム人材セミナーin広島

日時:平成28年10月13日(木)14:30~16:30

場所:広島大学 東広島キャンパス 理学研究科B301講義室

参加者数:40名

概要:学部・修士・博士を合わせて9年間大学に在籍してきた講師が、長いようで短かった大学院時代を振り返り、大学ではどのようなことに取組、企業ではどう変わったのかについて話します。「博士人材って要るの?」「企業に近い研究をしている学生の方が採用は有利なの?」というような、当時抱いていた疑問にもお答えしたいと思います。大学院で学んだことはどのように企業に入って活かされるのか、博士人材の企業の研究所での採用や位置付け、その後の活躍の場等について、弊社の一例をご紹介します、現在、博士課程に在籍されている方や、これから進学しようかなと思われている学部、修士の方への今後の参考になればと思います。

平成28年 10月13日(木)

・セミナー 14:30~16:30 (質疑応答含む)

・会場 東広島キャンパス 理学研究科 B301講義室

講師: 加藤 雄介 氏
(大塚製薬株式会社 開発 部長)

申込方法: 1.第26日、2.名前、3.所属、4.学年(職名)を明記して、wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp まで、Eメールにてご連絡ください。 ※ 申込締切: 10月11日(月)

申し込み・お問い合わせ先: 広島大学グローバルイノベーションセンター(広島 東広島 棟) E-mail: wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp TEL: 082-424-4554 URL: http://www.hiroshima-u.ac.jp/wakateyousei/

○第27回コンソーシアム人材セミナーin広島

日時:平成28年10月25日(火)14:30~16:30

場所:広島大学 東広島キャンパス 工学研究科大会議室

参加者数:20名

概要:IT 革命後、あらゆる情報やテクノロジーが凄まじい勢いで流通し溢れています。クラウド、スマートデバイス、ビッグデータ、AI、IoT...多くの知識や情報に囲まれる中、人々はパワーアップしているのでしょうか?残念ながらそうは思えません。情報の洪水におぼれ、アウトプットは全く増えていないにも関わらず、さも知識を得たような気になっています。AI やロボットの台頭で雇用減予想というニュースも出ているが、爆発的にITが蔓延している今だからこそ、人間の本来持つ感性・直観・イマジネーション・信念・価値観などが重要であると考えます。

平成28年 10/25日(火)

セミナー 14:30-16:30 (質疑応答含む)

会場 東広島キャンパス 工学研究科大会議室 (CO棟2階)

講師: 山本 孝昭 氏
(株式会社トリム・アーツ 代表取締役社長)

申込方法: 1.第27日、2.名前、3.所属、4.学年(職名)を明記して wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp まで Eメールにてご連絡ください。 ※ 申込締切: 10/21(金)

申し込み・お問い合わせ先: 広島大学グローバルイノベーションセンター(広島 東広島 棟) E-mail: wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp TEL: 082-424-4554 URL: http://www.hiroshima-u.ac.jp/wakateyousei/

本セミナーでは、こんな時代だからこそこの「自分づくりとは？」のヒントを紹介しします。講師はIT企業の社長でありながら、『「IT 断食」のすすめ』の著者でもあります。なぜ「IT 断食」なのでしょう？その答えも本セミナーで明らかにいたします。

○第28回コンソーシアム人材セミナーin広島

日時:平成28年11月11日(金)14:35~16:05
 場所:広島大学 東広島キャンパス 本部棟2階会議室
 参加者数:17名

概要:組織に於けるイノベーションに必要なのは、先ず何よりもイノベーターの存在です。ヨソ者、バカ者、若者がイノベーションをおこしています。彼らの執念や行動を組織の中で支援する存在も重要です。イノベーターに共感しアイデアをかたちにするサポーターとしてのマネージャです。また、組織自体が自由であり寛容度が高いことも必要です。イノベーションはひとりの頭の中で完結する訳ではありません。組織的営みの中でイノベーションは育まれていくのです。今回の講義では、豊富な事例を示しながら、イノベーションをマネジメントするのに大切な共感と寛容について、一緒に考えていきます。

HIRAKU 広島大学 工学部 工学教育推進センター 工学教育推進センター 工学教育推進センター
 大学院生・ポスドクを中心とした
 第28回コンソーシアム人材セミナー in 広島
 ~事例に学ぶ~
共感と寛容でイノベーションをマネジメントする
 平成28年 11月11日(金)
 ・セミナー 14:35~16:05 (質疑応答含む)
 ・会場 東広島キャンパス 本部棟2階会議室
 講師:井上 功氏
 (株式会社リアル・ビジネス・イン・イノベーション)
 [申込方法] 1.申込書・2.名前・3.所属・4.学年(職名)を明記して、wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jpまで、Eメールにてご届出ください。
 ※ 申込締切:11月9日(水)
 申込み・問い合わせ先
 広島大学グローバルキャリアデザインセンター(企画 総務 課)
 E-mail: wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp TEL: 082-424-4854
 URL: http://www.hiroshima-u.ac.jp/wakateyousei/

○第29回コンソーシアム人材セミナーin広島

日時:平成28年11月18日(金)14:35~16:05
 場所:広島大学 東広島キャンパス 総合科学研究科M棟3階第1会議室
 参加者数:46名

概要:IT技術がこれからの社会をどのように変えていくのか?最新のIBMワトソン技術の活用事例を通じてご紹介しします。ワトソン技術を駆使することによって、物事をより深く理解し活用し、より適切な意思決定を行なうことができます。人と同じように情報や経験から学習する人工知能を用いたワトソン技術のシステムを、IBMはコグニティブ・コンピューティング(認知コンピューティング)と呼んでいます。そして、それらの技術を推すIBMグループの研究開発体制を通して、グローバル企業における働き方の要点をご説明しします。

HIRAKU 広島大学 工学部 工学教育推進センター 工学教育推進センター 工学教育推進センター
 大学院生・ポスドクを中心とした
 第29回コンソーシアム人材セミナー in 広島
 第29回のおやかプログラムセミナー
IBMの技術戦略とグローバル企業での働き方 -for future leaders-
 平成28年 11月18日(金) 同時通訳あり(日本語・英語)
 ・セミナー 14:35~16:05 (質疑応答含む)
 ・会場 東広島キャンパス 総合科学研究科 M棟3階第1会議室
 講師:片岡 利枝子氏
 (日本IBM株式会社 東京研究開発センター 部長)
 [申込方法] 1.申込書・2.名前・3.所属・4.学年(職名)を明記して、wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jpまで、Eメールにてご届出ください。
 ※ 申込締切:11月16日(水)
 申込み・問い合わせ先
 広島大学グローバルキャリアデザインセンター(企画 総務 課)
 E-mail: wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp TEL: 082-424-4564
 URL: http://www.hiroshima-u.ac.jp/wakateyousei/

○第30回コンソーシアム人材セミナーin山口

日時:平成28年11月24日(木)15:00~17:00
 場所:山口大学 常盤キャンパス D41教室
 参加者数:35名

概要:東洋鋼鉄では鉄鋼業で培った素材・表面処理をコア技術として、バイオチップの開発に取り組んできました。山口大学様との共同研究により、個別化医療に貢献する体外診断薬の開発を進め、事業化に向けて大きく進んでいる状況です。講演では、異業種からライフサイエンスに挑戦するに至った経緯と、コア技術を活かした研究開発、事業化に向けた取組を紹介しします。

HIRAKU 広島大学 工学部 工学教育推進センター 工学教育推進センター 工学教育推進センター
 第30回コンソーシアム人材セミナー in 山口
自給自足 長州発グローバルイノベーション
 日時 平成28年11月24日(木) 15時~17時 参加無料 申込不要
 場所 山口大学 常盤キャンパス D41教室 (山口県山口市常盤2-16-1)
 プログラム
 15:00 開会挨拶 山口大学 理事・副学長 塩 英次
 15:05 講演 東洋鋼鉄 部長 藤村 孝氏
 演題「個別化医療に貢献するバイオチップの開発と事業化の取組」
 16:40 質疑応答
 16:55 閉会挨拶 キヤリアデザイン推進室 員 貞正
 [講演要約] 東洋鋼鉄は鉄鋼業で培った素材・表面処理をコア技術として、バイオチップの開発に取り組んできました。山口大学様との共同研究により、個別化医療に貢献する体外診断薬の開発を進め、事業化に向けて大きく進んでいる状況です。講演では、異業種からライフサイエンスに挑戦するに至った経緯と、コア技術を活かした研究開発、事業化に向けた取組を紹介しします。
 主催:広島大学工学部 工学教育推進センター 工学教育推進センター 工学教育推進センター
 共催:山口大学 常盤キャンパス D41教室
 協賛:HIRAKU にLIFE 工学部 工学教育推進センター 工学教育推進センター 工学教育推進センター
 工学教育推進センター 工学教育推進センター 工学教育推進センター
 URL: http://www.hiroshima-u.ac.jp/wakateyousei/

○第31回コンソーシアム人材セミナーin徳島

日時:平成28年12月5日(月)18:00~19:30
 場所:徳島大学 産学官連携プラザ3階 日垂ホール
 参加者数:45名

概要:イノベーションは技術革新だけを意味してはいません。しかし、多くのイノベーションが技術革新に基づいていることもまた確かです。その技術革新は多数の人たちの共同作業によるものです。しかしその発端にはしばしば独創的な個人がいます。彼はどのようなパーソナリティを持ち、創造に際してどのような論理を使ったのでしょうか。現在、ニーズが潜在化している中で、創造的な商品開発を行うにはどのようなマネジメントをすればよいのでしょうか。

○第32回コンソーシアム人材セミナーin広島

日時:平成28年12月8日(木)14:30~16:30
 場所:広島大学 東広島キャンパス 工学部113講義室
 参加者数:20名

概要:日本製鋼所は国内で最大の市場シェアを持つプラスチックの成形加工機械メーカーで、世界各国へも輸出・販売をしています。軽量化や機能化を目的に、自動車やモバイル機器をはじめ高度な開発・設計が必要になっています。講師は研究所に所属し解析技術を主体とした製品開発を行っています。その業務スタンスは、入社当時では大学で培った専門性を活かして研究開発をしていたものの、年を経る毎に自身の成長とともに徐々に変遷しています。今回は、このような自分の経験談も交え、聴講する学生の将来進路を考える上でひとつの参考となるようなお話をしようと考えています。

○第33回コンソーシアム人材セミナーin徳島

日時:平成29年1月23日(月)17:00~18:30
 場所:徳島大学 蔵本キャンパス 藤井節郎記念医科学センター 2階204室
 参加者数:37名

概要:「自らが合成した化合物を直ちにヒトに投与する」。究極の緊張感。しかし、ここには、ものづくりの化学者にしか味わえない誇りと喜びがあります。陽電子放射断層画像撮影法(PET)は、生命や病気に関わる分子が、体内のどこにどれだけあるかを画像化する技術です。PETにおける私達化学者の役割は、放射性的分子(PET分子プローブ)を開発することです。本講演では、PET分子プローブの化学研究を通じて、次代を担う若い皆様に本分野の魅力をお伝え、職業選択・経験の参考になれば幸いです。

○第34回コンソーシアム人材セミナーin広島

日時:平成29年1月26日(木)14:30~16:30

場所:広島大学 東広島キャンパス 生物圏科学研究科C314講義室

参加者数:65名

概要:オタフクソースは、企業理念をベースに広島発進に拘り、お好み焼の普及活動を中心とした、ニッチな世界で独自の価値創造を展開、一滴一滴に真心を込めるものづくりの精神を原点に、お客様満足を目指した取組を紹介しします。中でも商品開発サイクルである〜ハイブリッドシステム〜、5年目を迎えた研究室現在の取組から、少しでも当社を知って頂きたいと思ひます。その上で、当社が求める人財、活躍している人ほどのようなタイプか等、社内の育成体系も絡めてご説明させていただきます。

○第35回コンソーシアム人材セミナーin山口

日時:平成29年2月2日(木)15:00~17:00

場所:山口大学 吉田キャンパス 理学部11番講義室

参加者数:42名

概要:博士課程の時、自らの手で考案した粒子分析法を博士号取得直前にナノテク展に出展。これがインク業界から大きな反響があり、事業化の手ごたえを得ました。その後、科学技術振興機構A-STEP若手起業家タイプに採択され、3年5,800万円の予算を元に研究開発を進めました。その成果のひとつとしての起業でした。現在3期目に突入しましたが、これまでの資金調達、装置開発、知的財産の保護と大学とのかかわり方、大企業との連携の難しさ、どん底でも頑張れば助けてくれる人が居ることなどの経験をお話しします。講演を通じて、博士号取得後のキャリア形成について考えて頂ければと思ひます。

8. 若手研究人材の意識啓発を促す取組

8-1. ホームページ

本事業の取組内容は、オリジナルホームページ HIRAKU (<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hiraku/>) を構築し、イベント参加者募集や公募などのお知らせも随時掲載している。そこには、より詳細な内容や連携機関の情報を掲載している。また、若手研究者ポートフォリオ (HIRAKU-PF) にリンクしている。



広島大学グローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成

URL: https://www.hiroshima-u.ac.jp/gcdc_yr



山口大学

URL: <http://kenkyu.yamaguchi-u.ac.jp/HIRAKU/>

未来を拓く地方協奏プラットフォーム

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業

この度、文部科学省の平成26年度科学技術人材育成費補助事業「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」に、山口大学が共同実施機関として採択されました。

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」をテーマに、広島大学を代表機関として、共同実施機関に山口大学、徳島大学、連携機関には中国四の国立大学、公立大学、私立大学および多くの企業が参画して実施します。



長州五傑の碑 (山口大学吉田キャンパス)

トピックス

- 2016/12/12 [「未来博士3分間コンペティション2016」の受賞者が学長に報告](#)
- 2016/09/30 [「未来博士3分間コンペティション2016」において本学大学院生3名がHIRAKU学長特別賞など4件受賞](#)
- 2016/08/10 [「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」第3回成果報告会を開催](#)
- 2016/07/07 [未来を拓く地方協奏プラットフォーム\(HIRAKU\)第3回成果報告会～HIRAKUから博士後期課程への誘い～ \(ポスター\)](#)

徳島大学

URL: <http://www.tokushima-u.ac.jp/ccr/cons/>

徳島大学 研究支援・産官学連携センター
Center for Research Administration & Collaboration

未来を拓く地方協奏プラットフォーム

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業「次世代研究者育成プログラム」
中国四国地方を中心とした次世代研究者育成プログラム「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の情報を発信しています。

HIRAKU トップ プログラム概要 イベント 活動報告 公募情報 若手研究者の方へ 企業の方へ

2017年 1月 予定リスト

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31	2月 1日	2	3	4

代表機関: 広島大学のイベントカレンダー

8-2. 学生むけ小冊子 HIRAKU

HIRAKU Vol.1 (平成 27 年 3 月 発行)

博士課程後期を知る読本

- ・次世代研究者インタビュー
- ・博士課程後期研究者 座談会
- ・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



HIRAKU Vol.2 (平成 28 年 3 月発行)
 博士課程後期を知る読本
 ・「未来博士 3 分間コンペティション 2015」
 受賞者インタビュー
 ・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



**若きイノベーターが
次世代を探求する。**

「未来博士3分間コンペティション2015」受賞者インタビュー
 次世代研究者育成プログラム
 「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」

前例のない挑戦は世界初のスタート…3
 岡山大学 理化学部 生物資源学専攻 生物利用化学専攻 田嶋 英祐
 岡山大学 理化学部 生物資源学専攻 生物利用化学専攻 田嶋 英祐

引き出しの数だけ生まれる可能性…7
 岡山大学 大学院 生物資源学専攻 生物利用化学専攻 田嶋 英祐

ソフィアスイダサリ
 岡山大学 大学院 生物資源学専攻 生物利用化学専攻 田嶋 英祐

二浦 香織
 岡山大学 大学院 生物資源学専攻 生物利用化学専攻 田嶋 英祐

たまた一つの真理が探求者に与えられる栄誉…15
 岡山大学 大学院 生物資源学専攻 生物利用化学専攻 田嶋 英祐

内田 貴之
 岡山大学 大学院 生物資源学専攻 生物利用化学専攻 田嶋 英祐

普遍的価値観を技術で逆転させる…19
 岡山大学 大学院 生物資源学専攻 生物利用化学専攻 田嶋 英祐

木下 拓矢
 岡山大学 大学院 生物資源学専攻 生物利用化学専攻 田嶋 英祐

未来博士3分間コンペティション2015
 発表者紹介…23

未来を拓く地方協奏プラットフォームとは…31
 博士課程後期を知ろう…35

未来博士3分間コンペティション 2015
 未来の博士たちが、自身の研究のビジョンと魅力を3分間で分かりやすく語る「未来博士3分間コンペティション2015」を2015年11月1日に開催しました。約200人の客席オーディエンスを前に、博士課程後期の学生37人が1枚のスライド、持ち時間3分で研究内容のプレゼンテーションを行いました。HIRAKU Vol.2では、その受賞者にインタビューし、さらに研究内容を盛り下げてご紹介いたします。

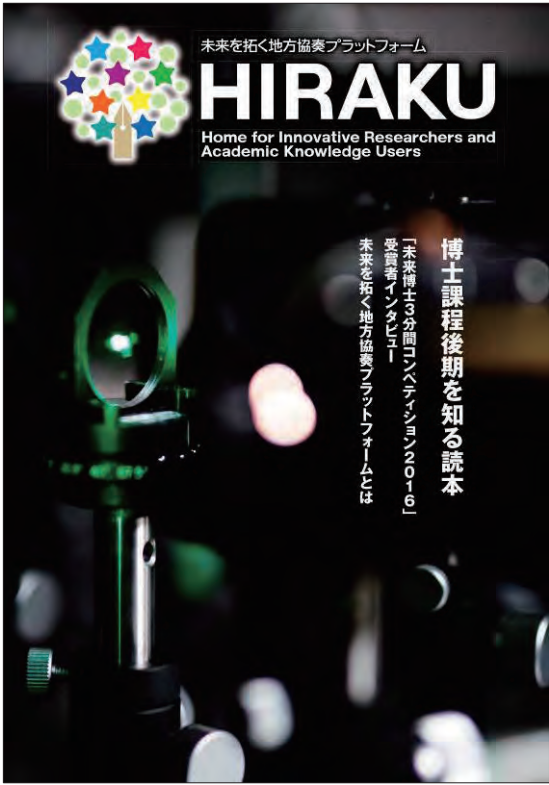
未来博士3分間コンペティション2015
 岡山大学 大学院 生物資源学専攻 生物利用化学専攻 田嶋 英祐

未来博士3分間コンペティション2015
 岡山大学 大学院 生物資源学専攻 生物利用化学専攻 田嶋 英祐

未来博士3分間コンペティション2015
 岡山大学 大学院 生物資源学専攻 生物利用化学専攻 田嶋 英祐

未来博士3分間コンペティション2015
 岡山大学 大学院 生物資源学専攻 生物利用化学専攻 田嶋 英祐

HIRAKU Vol.3 (平成 29 年 3 月発行予定)
 博士課程後期を知る読本
 ・「未来博士 3 分間コンペティション 2016」
 受賞者インタビュー
 ・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



「未来博士3分間コンペティション2016」受賞者インタビュー

声の謎を解き明かすため、テクノロジーの領域へ…5
 飯島 聡志
 HIRAKU 編集委員
 微生物は魔法の生物…9
 山口 大志
 山日本学 大学院 理工学 研究科 生命工学 研究センター 研究員

「未来博士3分間コンペティション2016」受賞者インタビュー

若きイノベーターたちが
 未知の世界に挑む。

世界の自然環境と母国の大地を取り戻す…13
 タロウ 裕也
 広島大学 大学院 環境学 研究科 環境学 研究センター 研究員

タンチャイ マンタナ
 慶応義塾大学 大学院 理工学 研究科 生命工学 研究センター 研究員

星 秀真 (日本語部)
 既知の中に潜む一片の未知を追う…16
 愛媛大学 大学院 理工学 研究科 生命工学 研究センター 研究員

赤澤 隆志
 星 秀真 (英語部)
 若くして死闘運命もある海の霊長類たち…19
 広島大学 大学院 理工学 研究科 生命工学 研究センター 研究員

宮野 哲史
 企業界 中核テクノス
 テクノロジーの先端から、神と同じ視線で世界を俯瞰する…22
 愛媛大学 大学院 理工学 研究科 生命工学 研究センター 研究員

水野 孝彦
 未来博士3分間コンペティション2016 発表者紹介…25
 未来を拓く地方協奏プラットフォームとは…34
 博士課程後期を知ろう…38

未来博士3分間コンペティション2016
 未来の博士たちが、自身の研究のビジョンと魅力を3分間で分かりやすく語る「未来博士3分間コンペティション2016」を2016年9月24日に開催しました。約300人の審査オーディエンスの前に、博士課程後期の学生38人が1枚のスライド、持ち時間3分で研究内容のプレゼンテーションを行いました。
 『HIRAKU Vol.3』では、その受賞者にインタビューし、さらに研究内容を掘り下げてご紹介します。

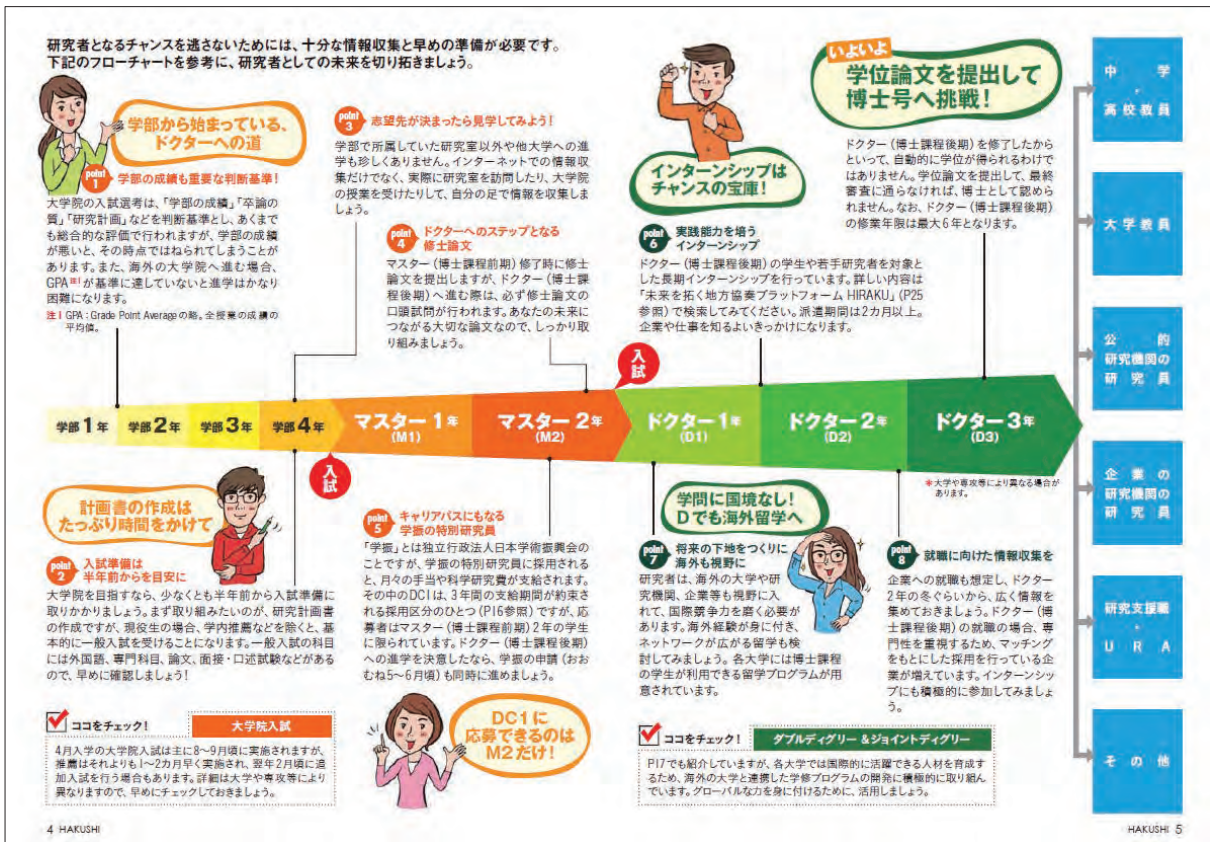
8-3. 学生むけ小冊子 HAKUSHI



HAKUSHI 2015年10月版

博士課程後期への進学は、あなたに与えられたかけがえのないチャンス。

- ・進学フロー
- ・研究者インタビュー
- ・学生インタビュー
- ・あなたの疑問にお答えします!!

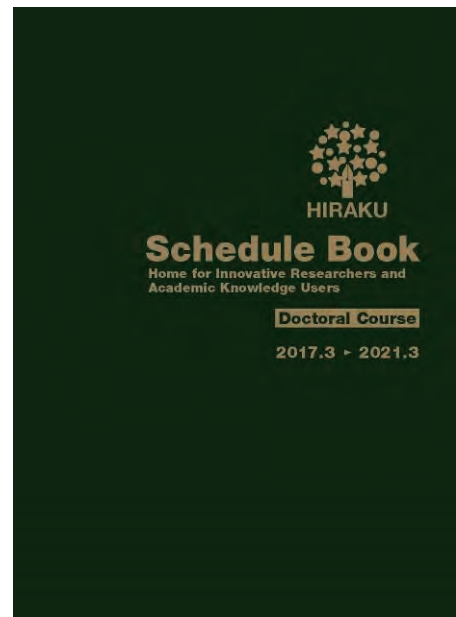


8-4. 4年手帳

博士課程後期の心得，進路についてのプランニング，大学で行われている学生支援等について掲載している。博士課程後期の時間を有意義に過ごすために必要な内容を盛り込んだ手帳である。共同実施機関、連携機関の新D1全員に配布している。

Doctoral Course Schedule Book 2017.3 ⇒ 2021.3
(平成 29 年 3 月発行)

- ・ 2017 年 3 月から 2021 年 3 月までのカレンダー・スケジュール帳
- ・ 博士課程後期の心得
- ・ 博士課程後期修了後の進路
- ・ 博士課程後期の学生支援
- ・ 税金・確定申告・健康保険・年金



9. 若手研究人材のキャリアスタート支援

9-1. 若手研究人材ポートフォリオ HIRAKU-PF

「若手研究者ポートフォリオ (HIRAKU-PF)」は、本事業の基幹 IT システムとして、いろいろな「あつまる」・「つながる」・「まじわる」機能を通じて、博士課程学生を含む若手研究者が社会とのつながりを深め、新たな出会いや気づきの中で自らの未来を拓くことができるように構築し、平成 28 年 (2016 年) 3 月に運用を開始した。

若手研究者ポートフォリオ (HIRAKU-PF) とは

若手研究者ポートフォリオ HIRAKU-PF は、未来を拓く地方協賛プラットフォーム (HIRAKU) の展開を支援する基幹 IT システムとして、2016 年 3 月に運用を開始しました。

博士課程学生やポストドクター等若手研究者向けの能力開発、修得した能力の指標化、若手研究者や研究シーズの検索機能などを通じて、次世代のイノベーションを担う人材を支援します。さらに、所属や分野を超えたつながりを形成し、人材や技術の活発かつ効果的な流動を促します。

[HIRAKU-PF 利用登録のご案内]

1. まずは <http://home.hiroshima-u.ac.jp/hiraku/> にアクセス!
2. 「HIRAKU-PF」のタブをクリック!
3. 「ユーザー登録」からメールアドレスで登録!
4. メールに添付された未登録用 URL にアクセスしてユーザー登録!
5. メールアドレスと登録したパスワードでログイン!

* ここから登録できるのは、以下の HIRAKU 連携機関に所属し、所属機関のドメインの入ったメールアドレスを利用している者に限りです。
 広島大学、山口大学、徳島大学、岡山大学、鳥取大学、島根大学、愛媛大学、香川大学、高知大学、福岡教育大学、経国大学、国立広島大学、広島市立大学、広島国際大学、立命館大学 (2016年3月現在)

登録できない場合は、下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

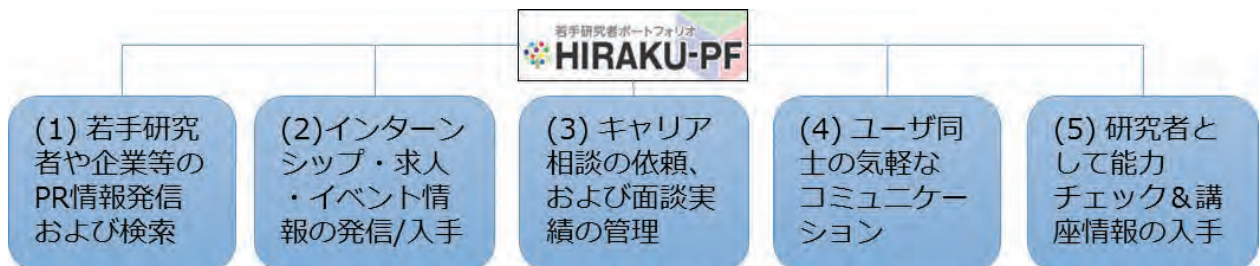
HIRAKU 未来を拓く地方協賛プラットフォーム
 広島大学グローバルイノベーションセンター内
 TEL: 082-424-2053 MAIL: hiraku@hiroshima-u.ac.jp
 URL: http://home.hiroshima-u.ac.jp/hiraku/

HIRAKU-PF 若手研究者ポートフォリオ
 2016年3月運用開始
<http://home.hiroshima-u.ac.jp/hiraku>

2016年3月発行

(導入時配布チラシ)

<HIRAKU-PF が網羅する主な機能>



- (1) 若手研究者も企業等のPR情報発信および検索 「eポートフォリオ機能」「検索機能」HIRAKU に参画する多くの国公立大学の博士課程学生・若手研究者、幅広い連携企業・公的機関がユーザ登録することにより利用可能となる。ユーザとして付与されたアカウントを基に e ポートフォリオを作成し、若手研究者は自分のプロフィールや研究業績、PR 動画やファイルを、連携機関は機関概要、求める博士人材、活躍している博士人材などを登録し、HIRAKU-PF 内で相互にアピールすることができる。若手研究者については氏名、所属機関やキーワードを利用して検索することができ、e ポートフォリオを閲覧することができる。

eポートフォリオ(ePortfolio)

最終更新日 (Last Updated) 2016/4/11

基本情報(Profile)

氏名(Name)
広島 太郎

所属機関(University/Institute)
広島大学

研究科/部署(Department)
生物圏科学研究科

職位・身分(Job Title/Position)
個人ユーザ(博士課程後期一貫) (D)

自己アピール(Appealing Points)
私は現在、「アセロラのビタミンC生食ロイヤル熱帯性の樹木で、栽培や研究は続けることで、「アセロラ」ほどのよみになりなってきました。
研究以外にも、サイエンス・パートナー

研究活動(Research Activities)

論文 (Published Papers)

2016/05/09	A Study on High Quality and L
2016/04/30	Low cost cloud-assisted peer
2016/04/30	A scheme for maximal resour
2013/02/25	A Study on Achieving Maximu

講演・口頭発表等 (Lecture/Oral Presentation)

2011/11/30	Probabilistic Packet Scheduling
------------	---------------------------------

(若手研究者)

e ポートフォリオを作成し、基本情報に加え、自己アピール文、研究活動など積極的にPRできる。

PR動画(PR Video)

再生できない場合、「研究活動」内記載のリンクからダウンロード、もしくはYouTubeでの再生をお試しください。If you cannot play the video from the below embedded window, please download the file or click the YouTube link listed at the bottom in the "Research Activities" section right above.

未来博士 3分間コンペティション2016



YouTube や mp4 ファイルなどの PR 動画を埋め込みで掲載することができる。

検索(若手研究者)(Search Young Researchers)

検索条件(Search Criteria)

研究分野の検索を行います。姓または、フルネーム、職名、研究分野(大分類)、キーワード、所属学会などの検索キーワードを入力し、検索がタテマシり分けていない1回の検索につき単語のみ入力してはならない。複数の単語を入力した場合は、1つの単語のみで検索を行います。検索結果、おに絞込むことができます。また、検索条件として、所属機関、研究分野(Research/Research)をドロップダウンから選択して検索することも可能です。検索: アラビア文字のみ

You can fill in one of the following key words to search (Lastname, Family Name or Given Name, Full Name, Position Title, Research Key Word, Research Society, etc.). You can enter only one key word per search, but you can narrow down the search results with additional key word entry. Results are shown in alphabetical order. Switch language to English by clicking the below radio button.

どなたか 検索(Search) Language: Japanese English

詳細条件(Filter by)

所属(University/Institute) 研究分野(大分類):

研究分野(小分類): 研究分野(小分類):

検索一覧(Search Result)

氏名	所属	職位・身分(Job Title/Position)	自己アピール(Appelling Points)	写真(Photo/Profile)
近藤 隆之	広島大学 生物圏科学研究科	博士課程後期(一貫)(D)	私は現在、Tytetらのプロジェクトに...	<input type="checkbox"/>
三浦 智樹	県立広島大学 総合学術研究科	博士課程後期(一貫)(D)	卒業・修士論文から選んでアスコルビン酸...	<input type="checkbox"/>

検索条件を入力・選択することにより、登録されている若手研究者を検索し、eポートフォリオを閲覧することができる。

eポートフォリオ(ePortfolio)

メッセージ送信(Send message)

基本情報(Profile)



県立子
Ritsuko Ken

- 氏名(Name)
県立子
- 所属機関(University/Institute)
県立広島大学
- 研究科/部署(Department)
総合学術研究科
- 職位・身分(Job Title/Position)
個人ユーザ(博士課程後期・一貫)(D)

閲覧したeポートフォリオから、直接システム内でメッセージを送信することができる。

基本情報(Profile)



企業・団体(Organization)
中外テクノス株式会社/Chugai Technos Corporation

部署(Department)
環境事業本部 取締役事業本部長 村岡 裕彦

機関紹介・PR>About us

事業案内
Business

「スマートな技術でスマートな未来を」
Smart/technology smart future

電機・機械・情報・物理・化学・生物の各部門からなる中外テクノスの技術を融合し、多様なニーズにスマート(効果的・効率的)なソリューションを提供します。

専門調査 | Investigation

環境、建設、工業あらゆる産業分野において、先進の調査技術を駆使した信頼性の高い調査データをご提供します。

- 環境調査・分析
- 環境微生物解析
- 環境影響性試験
- 省エネ診断
- 構築物調査

(連携企業・公的機関)
連携企業・公的機関のeポートフォリオでは、各機関の概要を掲載できる。既存のHPがあれば、画像やリンクなどもそのまま添付可能。

活躍中の博士人材(Doctorate Holders)

キラキラした目の
子どもたちを
もっと増やしたい

博士 (理学)
花里 美紗穂

全員が誰かのために
頑張っていることで

博士 (工学)
上野 裕子

研究室から
外へ出て出たかった
「夢」の仕事

博士 (生命科学)
碓貝 里子

求める人材(Expected Talents)

我々は高い夢と志を持って「ブレークスルー」に臨む挑戦者とする人達と共創して、感動と夢

“ブレークスルー”とは、
マツダにしかできないことを、得え抜く。
マツダだからできることを、やり抜く。
そこに、世界を牽引する走りが生まれる。

美しく実践な走りを生み出すにはパワフルなエンジンの開発が必要となり、
一方で、環境に優しいクルマを生み出すには燃費性能を突き詰めなければならない。
一般論としては、「相反する2つの最適なバランスを求める」といふ要諦が、技術の常識である。
これに対しマツダは、細くまでも常識にとらわれず、高い次元で両立させる選択を断行する。

これが「ブレークスルー」の発想だ。
バランスポイントを決めることは、ブレークスルーしない決めたことに等しい。
マツダならではの、自由に思考を豊かに行うチャレンジスピリットから、
世界に先がけたワクワクする走り、心奪われる美しいクルマが生み出されていく。
その一点にしか、我々は夢を見いださない。

■シニアエンジニアインタビュー
クルママツダで世界に貢献する。
平野の樹・広島でマツダの精神をカタチに。

ロードスター-主筆/山本修弘

1989年の誕生以来、世界中の人々から愛されているマツダ ロードスター。
現在も、より多くの感動と走る喜びを与えるべく進化を続けている。
その主筆である山本 修弘がエンジンコアを目指した自身の原点とマツダに流れるスピリット。
そして広島での開発にこだわり続ける理由や次代を担う職活生への思いを語る。

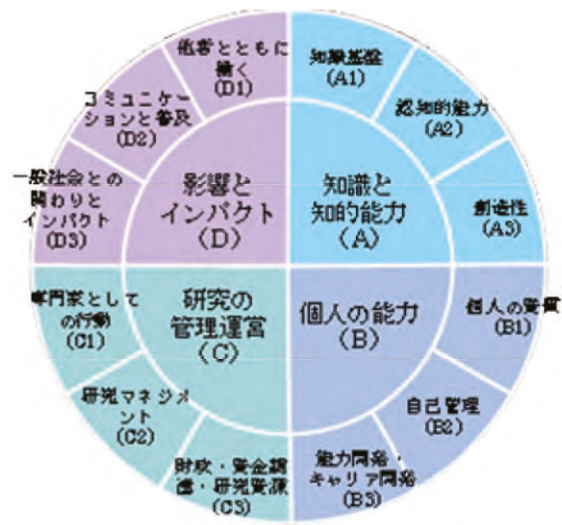
マツダ株式会社PRリンク
<http://www.mazda.com/ja/careers/newgraduate/interview/jyamamoto/>

求める人材や実際に活躍している人材など、博士人材に特化して情報発信ができる。

- (2) インターンシップ/求人/イベント情報の発信・入手 「インターンシップ機能」「イベント機能」
博士課程学生・若手研究者向けに集約されたインターンシップや求人情報などの情報が閲覧できるだけでなく、応募や必要書類のアップロードも HIRAKU-PF 上から行うことができる。HIRAKU-PF 上から連携企業/公的機関へ直接質問も可能である。若手研究者からの提案が新しいインターンシップや共同研究につながる流れも期待される。
- (3) キャリア相談の依頼および面談実績の管理 「キャリア相談機能」「支援情報機能」
キャリア相談やインターンシップ等の相談も、HIRAKU-PF を通じて依頼・設定可能であり、過去の相談状況を蓄積できる。また、各種支援情報も提供される。
- (4) ユーザ同士の気軽なコミュニケーション 「掲示板機能」「メッセージ機能」
(1) で前述のとおり、ユーザは検索後に閲覧した他ユーザの e ポートフォリオからメッセージ機能を使って直接連絡を取ることができる。また掲示板機能も用意。博士課程学生・若手研究者同士が掲示板グループを作成して若手研究者主体のイベント運営や情報交換などに利用したり、連携機関と若手研究者が掲示板グループを作成して共同研究のきっかけ作りに利用したり、研修やワークショップなどを通じてできたワーキンググループで掲示板グループを作成し課題・演習のフォローに活用したりすることなどが期待される。
- (5) 研究者として能力チェック & 講座情報の入手 「能力開発支援機能」
高等教育機関、研究機関の博士研究者や博士課程在籍者の自己啓発、専門的能力開発及びキャリア開発を支援する英国の非営利の全国的ネットワーク組織 Vitae が作成した研究者の総合的な能力指標、”Researchers Development Framework(RDF)”が組み込まれている。

研究者に必要とされる 63 項目の能力について 5 段階のステージで表示しているのので、現状把握や将来の指針として参考にすることができる。自分がどのステージにいるのか自己診断し、その根拠を記録することで、自分の能力を客観的に捉えることができ、さらなる向上を目指して目標を設定することができる。また対象能力を養成することが可能な授業やプログラムを確認し、その参加状況を記録することも可能。自己診断結果は、記録した根拠や設定目標と併せてレポート出力ができる。自分の能力養成状況を定期的に診断して更新し続けることにより、自分の成長状況を時系列で確認することができる。

(Vitae RDF)



Vitae ©2016 Careers Research Advisory Centre (CRAC) Limited.

詳細項目確認と診断(RDF Descriptor Phases & Assessment): RDF全項目診断(Full RDF Skills)

RDF No. A2.5 能力(Skill) 問題解決力 (Problem solving)

背景色がオレンジ色のフェーズが、あなたのロールに対して達成することを推奨される目標フェーズです。Phase 4 highlighted in orange is the skill level you are expected to achieve.

0	1	2	3	4
	自分の研究における基本テーマを特定し、基本的な研究上の問いと仮説を導く (Isolates basic themes of own research; formulates basic research questions and hypotheses.)	幅広い研究課題に対して研究案を練り上げて適用し、研究発表を体系的に分析、解釈している。(Formulates and applies solutions to a range of research problems and effectively analyses and interprets research results.)	研究の新たな動向、複雑な問い、広範な課題を特定し、大型のプロジェクトを立案している。(Identifies new trends, complex questions and broader problems; designs substantial projects. Challenges particular hypotheses and refines them in the light of results.)	物事の理解に大きく貢献することで研究課題によって、従来型の思考一般に異議を唱え、研究している。(Leads a research agenda by thinking in general and progress research them

目標未達成の場合には自分の現在のフェーズを、達成目標上のフェーズを達成している場合には上書きして You can overwrite this field, if your achieved phase is what is displayed.

能力ごとに 5 段階のステージに分けて、期待される知識・行動・態度などが表示される。自分がどの段階にあるか自己診断する。自己診断の根拠 (エビデンス)、対象能力を伸ばすためのアクションプランを入力することができる。

アクションプラン(Action Plan) 中項目レベル(全12項目)で設定したアクションプランが入れられてください。Please fill in your action plan/evidence per sub-domains if you want to expand it.

視野を広げ、幅広い課題解決に向けて大型のプロジェクトを立案できるよう、3000関連企業におけるインターンシップに挑戦する(2018年8月まで)

エビデンス(Evidence) 目標フェーズを達成している達成したと診断する場合、その根拠を入力してください。入力内容は自己診断レポートにも反映されます。Please fill in the evidence you can export in the Self-Assessment Report.

ABCDの研究において、テーマ「f=」に特定し、基本的な研究上の問いと仮説を練り、3分間コンペティション2015において企業賞XYZを受賞した。

3分間コンペ2015_最終発表.mp4

能力養成科目/プログラム詳細(Recommended Class/Program Description)

能力養成科目/プログラムの詳細です。一番下までスクロールすると、養成が期待される能力の一覧を確認することができます。
 the class/program. Scroll down to the bottom to check the full list of RDF skills expected to be developed by taking this class/pr
 this system.

参加予定記録(Mark to attend) 参加予定取消(Cancel marking)

長期インターナシップ

講師(Instructor)	三須敦幸
所属機関(Univ./Org.)	広島大学(Hiroshima University)
機関内識別コード(Class Code)	B5025001
所属学局(Faculty/Dept.)	グローバルキャリアデザインセンター
所属学期(Semester/Term)	2016年度
曜日・時間(Day/Period)	集中

対象能力を養成することが可能な講座、プログラムなどが登録されており、参加・受講を記録していくことができる。

自己評価レポート

評価時期: 2017年2月

氏名: NERAKU FFF 中野 優二 君
 学年・単位: 法政学研究員(FD)
 所属: 広島大学(Hiroshima University)
 研究科・専攻: NERAKU-FF 法学研究科

能力形成結果
 研究会基礎能力(Starter in Research)
 達成率: 47% (17項目中 8項目達成)

志望目標
 これまでの研究で培った能力をもとに、もっと一般社会に関わり、影響力を高めるような研究者になりたい。更具体的には、講演などで意見を表明でき、自信にたつことを目指す。そのために、一般社会との接点を増やし、リーダーシップ力とコミュニケーション力を向上させる。
 I aim to become a researcher, more engaged with the public, giving more impact and influence, based on the skills and competencies developed through lectures or any other social opportunities, proactively playing responsible roles on projects, providing coaching and guidance to the less. To achieve my goal in 3 years to become a called position(job, etc.), I will take more public opportunities and develop my leadership, and communi

学習目標
 「前期」志望目標である「一般社会との関わり」のために、「応用とイノベーション」を培うための基礎・セミナーを受講する。更具体的には、実践プログラム「実践とイノベーション」で実践能力を身につける。
 インターナシップについては、参加先の方との信頼関係を築きつつ、一般社会との関わりやコミュニケーション力を高めるために、科学者としてのプレゼン

能力形成成果

能力形成結果(詳細)

項目	到達目標	評価結果	理由
A1: 基礎能力	特定の領域に必要な応用とイノベーションの強化に努め、実践能力の向上を図る。学問的誠実性を培う。	達成済	
A2: 応用とイノベーション	特定の領域に必要な応用とイノベーションの強化に努め、実践能力の向上を図る。	達成済	
A3: 問題解決力	特定の領域に必要な応用とイノベーションの強化に努め、実践能力の向上を図る。	達成済	
A4: 学術的コミュニケーション力	特定の領域に必要な応用とイノベーションの強化に努め、実践能力の向上を図る。	達成済	
A5: リーダーシップ	特定の領域に必要な応用とイノベーションの強化に努め、実践能力の向上を図る。	達成済	
A6: 情報リテラシー	特定の領域に必要な応用とイノベーションの強化に努め、実践能力の向上を図る。	達成済	
A7: 英語力	特定の領域に必要な応用とイノベーションの強化に努め、実践能力の向上を図る。	達成済	
A8: 批判的思考力	特定の領域に必要な応用とイノベーションの強化に努め、実践能力の向上を図る。	達成済	
A9: プレゼンテーション能力	特定の領域に必要な応用とイノベーションの強化に努め、実践能力の向上を図る。	達成済	
A10: チームワーク	特定の領域に必要な応用とイノベーションの強化に努め、実践能力の向上を図る。	達成済	
A11: 学問的誠実性	特定の領域に必要な応用とイノベーションの強化に努め、実践能力の向上を図る。	達成済	
A12: 研究の計画性	特定の領域に必要な応用とイノベーションの強化に努め、実践能力の向上を図る。	達成済	
A13: 研究の遂行能力	特定の領域に必要な応用とイノベーションの強化に努め、実践能力の向上を図る。	達成済	
A14: 研究の発表能力	特定の領域に必要な応用とイノベーションの強化に努め、実践能力の向上を図る。	達成済	

自己診断結果、短期・長期目標、エビデンス、アクションプラン、記録した科目参加履歴などを時系列で遡ってエクセルに出力することができる。

<ユーザ数>

- 平成 28 年 4 月 29 日時点の 126 件から平成 29 年 1 月 31 日現在で 386 件まで着実に増加
- 平成 29 年 1 月 31 日現在のユーザ数の内訳は、若手研究者 298 名 (D/M 259 名、PD 35 名 OB/OG 4 名)、教職員(相談員含む) 35 名、機関ユーザー登録 53 機関
- 平成 29 年 1 月 31 日現在、若手研究者の所属機関は広島大学 253 名、山口大学 16 名、徳島大学 6 名、左記以外の大学 23 名

9-2. 博士人材キャリア相談室

センターのスタッフ等と一緒に自身のキャリア設計について考え、今後の進路に関する不安を一つ一つ解決する支援をしている。たとえば、就職を希望する博士課程後期学生や若手研究者には、履歴書を作成させ、履歴書の構成や文章の流れなどを指導したり、面接試験にあたっての基本的なマナーや礼儀作法、あるいは企業出身のコーディネーターや幅広い分野の専門家の先生と実践形式の面接指導などを行ったりしている。

【例】キャリア設計相談、進路・進学相談、履歴書作成・面接指導、プレゼンテーション能力の向上

相談日時： 随時(但し、予約優先)

場所： グローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成(広島大学学生プラザ 2F)

予約： 「若手研究者ポートフォリオ(HIRAKU-PF)」面談機能を利用して予約すること。

問合せ先: グローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成

E-MAIL wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp

URL https://www.hiroshima-u.ac.jp/gcdc_yr/consultation

平成26年度11月以降相談者延べ数110名

平成27年度相談者延べ数 213名

平成28年度(1月末日現在)相談者延べ人数172名

10. 代表機関および共同実施機関の独自の取組

10-1. 広島大学独自の取組

10-1-1. 長期インターンシップチャレンジカフェ

HIRAKU 長期インターンシッププログラムにより、国内外へ2ヶ月以上有給で派遣された博士課程後期学生・若手研究者がその成果を報告する。

(1) 第2回 HIRAKU 長期インターンシップチャレンジカフェ「研究経験が拓く未来」

日時：8月2日（火）13：00～15：00

場所：学生プラザ1F 東側ホール

参加者：21名

内容：今回主に第3期（平成27年度後期）に派遣された下記の若手研究者が発表した。

- ・HOAN THANH HOAI（理学研究科D3）
→ 富士通（株）研究所
- ・戴 容秦思（生物圏科学研究科研究員）
→（株）イズミ
- ・重藤 元（特別研究員）
→（株）ジェイ・エム・エス
- ・西津 卓史（工学研究科D2）→（株）IHI
- ・木下 拓矢（工学研究科D1）→ マツダ（株）
- ・澤井 悦郎（特別研究員）
→ テパパ博物館（ニュージーランド）

（※学年・役職は派遣当時）



研究経験が拓く未来
HIRAKU
長期インターンシップ
チャレンジ・カフェ #2

8月2日（火）
13：00～15：00

会場：広島大学 学生プラザ1F東側
対象：大学院生・若手研究者
（学部生も大歓迎）

1.HIRAKUインターンシップ体験報告
博士課程後期学生や若手研究者が国内外のインターンシップ（2か月以上）に挑戦した結果を報告します。

HOAN THANH HOAI（理学研究科D3）→富士通研究所
戴 容秦思（生物圏科学研究科研究員）→株式会社イズミ
重藤 元（特別研究員）→株式会社ジェイ・エム・エス
西津 卓史（工学研究科D2）→株式会社IHI
木下 拓矢（工学研究科D1）→マツダ
澤井 悦郎（特別研究員）→テパパ博物館（ニュージーランド）

2.座談会

参加無料
申込締切
7/29（金）

※学年・役職は派遣当時
15：30～ 特別研究員成業報告会もあります。ごちねびにお願いいたします。

【主催・申込先】未来を拓く地方協働プラットフォーム運営事務局
広島大学グローバルキャリアデザインセンター（若手研究人材養成担当）
http://hiroshima-u.jp/gcdk_yj/news/2016-07-13-2436
E-mail: wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp



(2) 第3回 HIRAKU 長期インターンシップチャレンジカフェ「世界は広がっている。今、飛び出す時だ。」

日 時：3月1日（水）13：00～15：00

場 所：学生プラザ 1F 東側

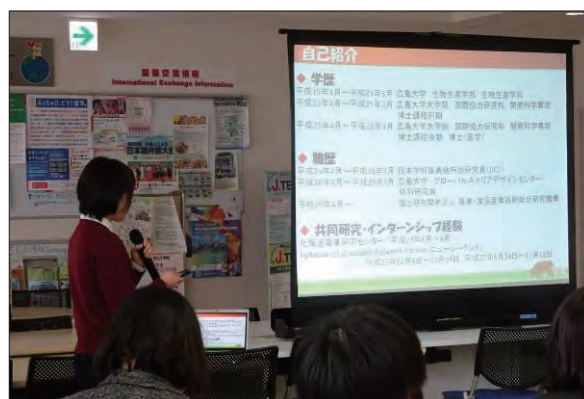
参加者：29名

対 象：大学院生、若手研究者（学部生も歓迎）

内 容：今回主に第5期（平成28年度後期）に派遣された下記の若手研究者が発表した。

- ・ 世良 文香（理学研究科 D2）
→ TDK 株式会社
- ・ 上田 浩晶（理学研究科 D3）
→ 農研機構 西日本農業研究センター
- ・ Jakkamupdi Satish（理学研究科 D3）→ 東ソー株式会社
- ・ 吉利 怜奈（特別研究員）→ 株式会社三菱総合研究所
- ・ 久野 敬司（岐阜大学大学院工学研究科 D2）→ 株式会社デンソー
- ・ 高橋 誉文（広島市立大学 協力研究員）→ マツダ株式会社

(※学年・役職は派遣当時)



10-1-2. 広島大学特別研究員成果報告会

広島大学特別研究員が、研究実績と多様なキャリアパス形成の取組について報告する。

(1) 第1回広島大学特別研究員成果報告会

日 時：平成 28 年 8 月 2 日（火）15：30～17：00

場 所：学生プラザ 1F 東側

参加者：21 名

内 容：平成 27 年 2 期採用の特別研究員が発表した。

- ・ LIU LIYUN 「アルカリ及び水ストレスに対する植物の栄養生理学的研究」
- ・ 澤井 悦郎 「マンボウに関する複合領域研究」
- ・ SAMANMULYA THACHANAN 「アルミ酸の超臨界水ガス化特性」
- ・ 重藤 元 「インスリンが関わる生細胞応答の評価法開発」
- ・ XIONG YUBING 「日本における若者の住宅移転選択に関するライフコース研究」
- ・ SINGH MRINILA 「広島大学特別研究員としての活動と成果」

**広島大学特別研究員
成果報告会(平成27年度第2期)**

【日時】：8月2日(火) 15:30～17:00

【場所】：学生プラザ1階 東側

【参加申し込み】	【内容】
7月27(水)までに下記連絡先までメールにてお申し込みください	<p>〈口頭発表〉 15:30～16:30(管理時間を含む)</p> <p>〈ポスター発表〉 16:30～17:00</p> <p>各研究員が設定した目標、それに関する成果、今後の展望等について発表していただきます</p>

参加
無料

【成果報告者・演題】

1. LIU LIYUN 「アルカリ及び水ストレスに対する植物の栄養生理学的研究 / Studies on nutritional and physiological adaptation of plants to alkaline and drought stresses」
2. 澤井 悦郎 「マンボウに関する複合領域研究 / Interdisciplinary research of the ocean manfish」
3. SAMANMULYA THACHANAN 「アルミ酸の超臨界水ガス化特性 / Supercritical water gasification characteristics of amino acids」
4. 重藤 元 「インスリンが関わる生細胞応答の評価法開発 / Development of evaluating methods for the live cell response relating to insulin」
5. XIONG YUBING 「日本における若者の住宅移転選択に関するライフコース研究 / Life-course investigation of Young adults' residential relocation choices associated with living environment in Japan」
6. SINGH MRINILA 「広島大学特別研究員としての活動と成果 / Activities and achievements as a Post-doctoral Researcher under Global Career Center」

※ポスターのみ

【お問い合わせ・お申し込み】
 広島大学グローバルキャリアデザインセンター（若手研究人材養成担当）
 Tel: 082-424-4563 Fax: 082-424-4565 E-mail: wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp
 URL: http://hiroshima-u.jp/gcdc_yr

【共催】：広島大学女性研究活動委員会



(2) 第2回広島大学特別研究員成果報告会

日時：平成29年3月1日(水) 15:00~17:00

場所：学生プラザ 1F 東側

参加者：26名

内容：主に平成28年1期採用の特別研究員が発表した。

- ・ 何 美娜 「正岡子規漢詩研究」
- ・ 永田 祥子 「グローバル化する社会における移民・難民への教育支援ーアメリカの文化施設の取り組みからー」
- ・ シディキ ヒダヤトラ 「政治的イスラームと欧米：国際政治と安全保障の行方」
- ・ 板倉 和裕 「独立インドにおけるマイノリティの包含と排除」
- ・ 吉利 玲奈 「放牧草地における家畜行動の監視技術の高度化と環境要因の空間モデリング」
- ・ 林 志炫 「リモートセンシング技術による精密な放牧管理」
- ・ 宮良 雅嗣 「神経科学研究者としての将来に向けた研究基盤の確立および研究力強化」
- ・ ドン ペンポー 「高熱効率で環境に優しいクリーンディーゼルエンジンのための燃料噴射システムの探索」

第2回 広島大学特別研究員成果報告会
 【日時】 3月1日(水) 15:00~17:00
 【場所】 学生プラザ1階 東側

【内容】 各研究員が設定した目標、それに関する成果、今後の展望について発表します。(ポスター発表)

【参加申込】 2月22日(水)までに下記連絡先にてお申し込みください。
 ※報告会終了後の18:00の懇話会を予定しています。一般の方の参加も歓迎いたしますので、希望者は合わせてお申し込みください。場所は未定。参加費は一人3000円程度です。

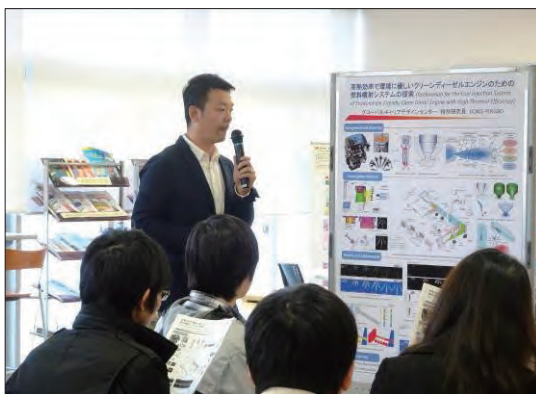
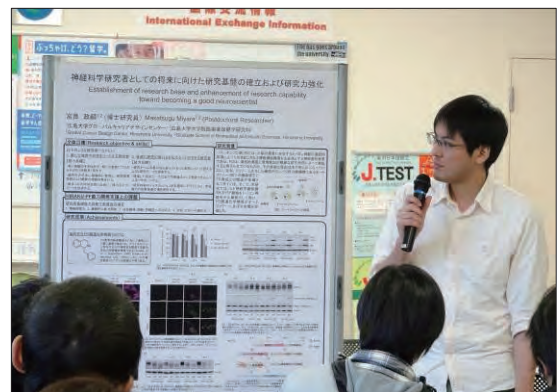
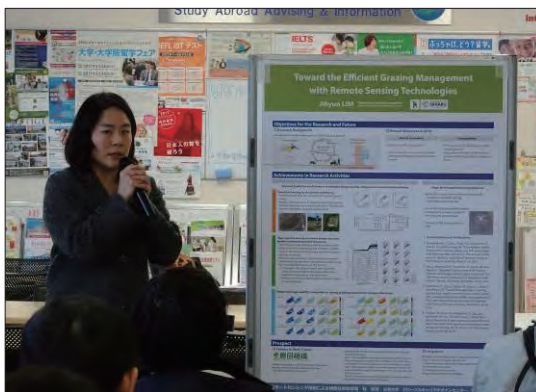
【成果報告者・演題】

1. 何 美娜 「正岡子規漢詩研究」
2. 永田 祥子 「グローバル化する社会における移民・難民への教育支援ーアメリカの文化施設の取り組みからー」
3. シディキ ヒダヤトラ 「政治的イスラームと欧米：国際政治と安全保障の行方」
4. 板倉 和裕 「独立インドにおけるマイノリティの包含と排除」
5. 吉利 玲奈 「放牧草地における家畜行動の監視技術の高度化と環境要因の空間モデリング」
6. 林 志炫 「リモートセンシング技術による精密な放牧管理」
7. 宮良 雅嗣 「神経科学研究者としての将来に向けた研究基盤の確立および研究力強化」
8. ドン ペンポー 「高熱効率で環境に優しいクリーンディーゼルエンジンのための燃料噴射システムの探索」

【お問い合わせ・お申し込み】
 広島大学グローバルキョウリクデザインセンター(若手研究人材養成担当)
 Tel. 080-424-4863 Fax: 082-424-4365
 Email: wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp
 URL: https://www.hiroshima-u.ac.jp/gdc_yr/news/37446

【共催】 広島大学女性研究活動委員会

参加無料



10-1-3. 博士のためのキャリアガイダンス

～HIRAKU-PFに登録してキャリアオプションを拡げよう～

博士課程後期修了者のキャリアパスの現状や民間企業における博士人材のニーズの変化についての講義を行った。併せて、HIRAKU-PFの利用説明を行った。参加者は合計 39 名。

(1) 第1回ガイダンス

- ①日 時：6月27日(月) 16:30～17:30
会 場：工学研究科 107 講義室
- ②日 時：6月30日(木) 16:30～17:30
会 場：理学研究科 E210
- ③日 時：7月4日(月) 16:30～17:30
会 場：総合科学研究科 K209
- ④日 時：7月7日(木) 16:30～17:30
会 場：教育学研究科 K109

(2) 第2回ガイダンス

- ①日 時：12月5日(月) 16:30～17:30
会 場：国際協力研究科 大会議室
- ②日 時：12月6日(木) 16:30～17:30
会 場：先端物質科学研究科 403N 講義室



10-1-4. 実践プログラム

博士課程学生（前期を除く）及び若手研究員（PD）を対象に、新分野に挑戦する活力のある研究人材の育成を目的として、「実践プログラム」を提供している。「実践プログラム」は、広島大学の大学院共通授業科目から構成している。

(1) 実践プログラムの構成

それぞれのプログラムの、広島大学内の連携先及び内容の概略を次に示す。

	プログラム名	広島大学内の連携先	内容
実務 コア コース	実務キャリアプログラム	グローバルキャリアデザインセンター	社会人基礎力の向上と、ビジネススキルの基礎を学ぶ
	英語コミュニケーションプログラム	外国語教育研究センター	日常的・国際的な場面において英語で円滑なコミュニケーションを行うための英語運用能力を取得する
		ライティングセンター	自身の研究内容を分かり易く英語で書く・伝えるスキルを学ぶ

	MOT教育プログラム	工学研究科	ケースメソッドを通して、企業実務や経営など専門的な技術経営を学ぶ
イノベーション研究コース	融合領域研究プログラム	理学研究科等 量子生命科学プロジェクト研究センター	5研究科共同セミナー(※) 物質科学, 生命科学, 情報科学を基盤とする融合領域研究の基礎を学ぶ
	異分野研究支援プログラム	グローバルキャリアデザインセンター 量子生命科学プロジェクト研究センター	コンソーシアム人材セミナー, ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム, 若手研究者シーズ発表会, 課題提案型ワークショップ
	企業派遣プログラム	グローバルキャリアデザインセンター	民間企業等での2ヶ月以上のインターンシップとそれに係る事前研修。事後研修(成果報告会)。

※「5研究科共同セミナー」は、広島大学の自然科学・技術系研究科(総合科学, 理学, 工学, 先端物質科学, 生物圏科学の「5研究科」)において開催される学術講演やセミナー等を、15回以上の出席により、単位を合否で認定するものである。

(2) 実務コアコース (平成 28 年度)

【実務キャリアプログラム】

講義名	担当教員名	時期	曜日時限	場所
リーダーシップ手法 -キャリア開発の視点から-	三須 敏幸	第1ターム	金 7 - 8	西図書館グループ 閲覧室 104
実務マネジメント -キャリア開発の視点から-	三須 敏幸	第3ターム	金 7 - 8	西図書館グループ 閲覧室 104
人文社会系キャリアデザイン I (キャリア理論)	森 玲子	第1ターム	集中	別途指示
人文社会系キャリアデザイン II (キャリア開発)	森 玲子	第2ターム	集中	別途指示
人文社会系キャリアデザイン I (キャリア理論)	森 玲子	第3ターム	集中	別途指示
人文社会系キャリアデザイン II (キャリア開発)	森 玲子	第4ターム	集中	別途指示
理工系キャリアデザイン1(コミュニケーション、プレゼンテーション)	原田 淳	前期	9/12-13	総 J206
理工系キャリアデザイン2 (ファシリテーション)	原田 淳	前期	9/14-15	総 J206
ストレスマネジメント	原田 淳	後期	月 9-10	総 K307

【英語コミュニケーションプログラム】

講義名	担当教員名	時期	曜日時限	場所
アドバンスト・イングリッシュ I	吉川 りさ	前期	火 9-10	総 J102CALL
アドバンスト・イングリッシュ I	森田 光宏	前期	木 9-10	総 J209CALL
アドバンスト・イングリッシュ I	森田 光宏	後期	火 9-10	総 J209CALL
プレ・アカデミック・イングリッシュ II	鬼田 崇作	前期	火 9-10	メディア西演習室
プレ・アカデミック・イングリッシュ II	草薙 邦広	前期	火 9-10	総 J307CALL
プレ・アカデミック・イングリッシュ II	阪上 辰也	前期	木 9-10	総 J307CALL
プレ・アカデミック・イングリッシュ II	鬼田 崇作	前期	木 9-10	メディア西演習室
プレ・アカデミック・イングリッシュ II	鬼田 崇作	後期	火 9-10	総 J307CALL
論文英語修辞学	河本 健	前期	木 9-10	中央図書館ライブ ラリーホール
英語論文執筆のための アカデミック・ライティング	Paul W. L. Lai	前期	9/15-16	中央図書館ライブ ラリーホール
論文英語修辞学演習	河本 健	後期	火 9-10	中央図書館ライブ ラリーホール

【MOT 教育プログラム】

講義名	担当教員名	時期	曜日時限	場所
MOT とベンチャービジネス論 (MOT-1)	伊藤 孝夫	第1ターム	月/木 1-2	工 220
技術移転論(MOT-4)	伊藤 孝夫	第2ターム	月/木 1-2	工 220
知的財産及び財務・会計論 (MOT-3)	伊藤 孝夫	第3ターム	月/木 1-2	工 117
技術戦略論(MOT-2)	伊藤 孝夫	第4ターム	月/木 1-2	工 117
MOT and Venture Business(MOT-E1)	伊藤 孝夫	第2ターム	月/木 3-4	VBL203
Technology Transfer(MOT-E2)	伊藤 孝夫	前期	集中	VBL203

(3) イノベーション研究コース (平成 28 年度)

【融合領域研究プログラム】

講義名	担当教員名	時期	曜日時限	開講部局
5 研究科共同セミナー		前後期		総合科学、理学、工学、先端物質科学、生物圏科学
理学融合基礎概論 A	木村 俊一	後期	月 5-6	理学研究科
プロテオミクス実験法・同実習	泉 俊輔	前期	集中	理学研究科

(4) 異分野研究支援プログラム

① コンソーシアム人材セミナー (第8章に詳細を記載)

連携企業等より講師を招き、求める人材像や研究内容等を紹介していただく。

② 課題提案型ワークショップ (第6章に詳細を記載)

若手研究者と企業等との連携を促進させるとともに、若手研究者の課題解決能力の養成やビジネスへの意識を高める機会とする。

平成28年6月2日(木) 第1回「ビッグデータの利活用について考える」

③ ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム (第6章に詳細を記載)

英語での発表・質疑応答

第13回 2016年12月10日(土)、11日(日) 学士会館2階レセプションホール
(東広島キャンパス)

【企業派遣プログラム】

講義名	担当教員名	時期	曜日時限	場所
長期インターンシップ	三須 敏幸	通年	集中	別途指示

(第4章に詳細を記載)

10-1-5. 研究者紹介

広島大学内のグローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成のHPに、取材コーナーを設けている。ここでは、広島大学学生が取材、記事作成を行った、様々な視点からのインタビュー記事を掲載している。



- (1) 博士人材インタビュー - TO BE PROFESSIONAL 「D」の飛翔 -
 第32回 2016年6月9日取材・2016年7月1日HP掲載
 広島大学 大学院教育学研究科 文化教育開発専攻 D3 大坂 遊さん

研究を始めたきっかけ

—学部での学びと教師としての挫折を経験して
 現在の研究について
 研究室の雰囲気—今年のテーマは「人生あつての研究」
 修了後の進路について—自身の目標と夢
 未来博士3分間コンペティション2015に出場して
 アカデミックコンテストについて—企画のきっかけと込めた思い



第 33 回 2016 年 6 月 29 日取材・2016 年 9 月 26 日 HP 掲載

広島大学 大学院総合科学研究科(フェニックスプログラム)D2 大庭 ゆりかさん

ご自身が所属しているプログラムについて教えてください
災害復興に携わろうと思ったきっかけを教えてください
このプログラムに入学してどのように感じていますか？
研究内容を教えてください
今後の展望について教えてください



(2) 教員へのインタビュー - Professional 先生の流儀 -

第 26 回 2016 年 7 月 29 日取材・2016 年 8 月 19 日掲載

広島大学 大学院工学研究院 応用化学専攻 大下 浄治 教授

新しい物質を生み出す楽しさ

有機電子材料の開発

身近な元素:Si(ケイ素)

研究のきっかけはアポロ 11 号

物づくりの面から世の中の役に立ちたい

転んでもただでは起きない！

一失敗の中から次の手掛かりを見つけ出す

学生への接し方—自分で考える力

D 進学を考える学生の皆さんへ



(3) 海外の大学、研究機関を経験した博士人材、教員へのインタビュー

— 研究留学 Challenge 海外で研究をしたい —

第 15 回 2016 年 2 月 10 日取材・2016 年 4 月 1 日 HP 掲載

広島大学 大学院教育学研究科 文化教育開発専攻 D3 阪上 弘彬さん

ドイツ テュービンゲン大学

現在の研究内容は？

留学に行くまでの経緯は？

留学先での研究について

語学力について

ストレス解消について



留学を経ての収穫

海外に出て気づいたことや注意点

これからドクター進学を考える学生へのメッセージ

(4) 若手研究者の研究紹介

第10回 2016年4月20日取材・2016年6月3日HP掲載

広島大学特別研究員(グローバルキャリアデザインセンター) 澤井 悦郎 さん

「未知の生物、マンボウを解明する」

多角的な視点からマンボウを見つめる

標本の扱いが難しい研究だからこそ、興味深い

マンボウをより多くの人に知ってもらうために



第11回 2016年5月16日取材・2016年6月13日HP掲載

広島大学 大学院医歯薬保健学研究院 梶原 弘平 助教

「認知症の介護者に寄り添い、支える」

経歴—看護の現場から研究の場へ

研究の問題意識—なぜ認知症の介護に焦点を当てたのか

自身の研究について—介護者の“肯定感”

研究の軌跡

今後の研究

世界最高齢化率の日本で介護の研究を行うこと



第12回 2016年4月25日取材・2016年6月27日HP掲載

広島大学特別研究員(グローバルキャリアデザインセンター) 重藤 元さん

「糖尿病治療薬開発の効率化を目指して」

効率的な治療薬開発のために

プローブと細胞評価デバイスの開発

—謎の多い細胞のメカニズムを追う

いかに「ものづくり」として確立していくか



第13回 2016年9月5日取材・2016年10月19日HP掲載

広島大学特別研究員(グローバルキャリアデザインセンター) 何 美娜さん

「正岡子規の知られざる一面、漢詩人としての子規をみつめる」

研究テーマ—漢詩人としての正岡子規

研究を始めるきっかけ—日本文学との出会い

インターンシップに関して—子規記念博物館での経験

今後の展望—子規の漢詩を広く紹介する



第14回 2016年6月23日取材・2016年11月17日HP掲載

広島大学 大学院医歯薬保健学研究院 中島 祐子助教

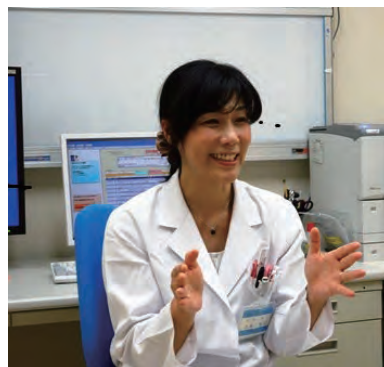
「整形外科という分野で超音波を使い、新たな可能性を探る」

見えなかったものが見える、見えるから分かる、分かるからできる

限られた時間の中で、自分ができること

広島という地元に根差したシステム作り

日本初の運動器超音波講座



(5) 特集 Career advice –Explore Your Future–

◆研究者の素顔

「研究したい」、「研究職に就きたい」と思って博士課程後期に進学を考える一方で、修了後の生活を考えたとき、漠然と不安になる、、、そういう学生も多いのではないのでしょうか。

研究者がどういうバランスで研究を継続しているのか、研究とプライベートと合わせてお聞きしました。

第6回 2016年2月26日取材・2016年6月9日HP掲載

広島大学 大学院先端物質科学研究科 量子物質科学専攻 富永 依里子 助教

～人生に「IF」はない～

研究内容—「半導体結晶の可能性～過去の研究を未来につなげて～」

プライベートな時間はありますか？

「人に支えてもらって今の自分がある」

子どもの頃の夢「地球を救う仕事につきたい！」

ターニングポイント「運命のじゃんけん」



10年後の自分へ「面白い研究で学生を世界に送り出せていますか」
博士課程後期進学を考える学生にメッセージ「人生に正解はありません」

第7回 2016年2月8日取材・2016年7月15日HP掲載
広島大学 大学院教育学研究科 心理学講座 尾形 明子 准教授

仕事と家庭、両方の幸せを追い求めて

心理学を専攻した理由
Dの時に思っていた将来像
子ども時代を振り返って:好奇心旺盛な子ども時代
研究生活で苦労したこと
これまでの研究生活で成功した体験
これまでの人生の分岐点
臨床現場で大事にしていること
今後やってみたいこと
10年後の自分はどうありたいか



第8回 2016年5月30日取材・2016年7月29日HP掲載
広島大学 大学院医歯薬保健学研究院 消化器・移植外科学 田邊 和照 准教授

家族とともに、よりよい手術への挑戦

研究内容について教えてください。
今の職業を目指した理由を教えてください。
1日の流れを教えてください。
今後の展望を教えてください。
博士課程後期を目指す学生へ



第9回 2016年3月2日取材・2016年8月29日HP掲載

広島大学 大学院総合科学研究科 環境自然科学講座 ヴィレヌーヴ 真澄美 准教授

仕事も研究も！実験しながら子どもとの時間も大切に

企業の研究者から学術機関の研究者へ

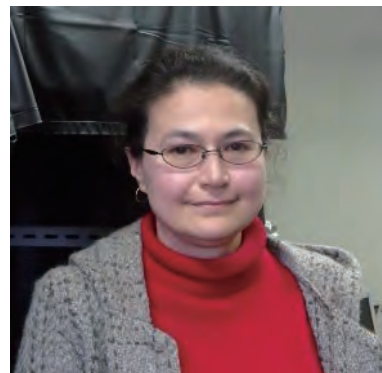
博士課程後期時代

人生の岐路:研究者という仕事を身近に感じた高校の夏

仕事と家庭のバランス:子供と過ごす時間も大切に

実験結果が予想と違う時にわくわくする！

今後の目標:誰もやっていないことをやりたい



第10回 2016年3月14日取材・2016年9月5日HP掲載

広島大学 大学院国際協力研究科 平和共生講座 片柳 真理 教授

～すべての経験が自分をつくる～

研究内容

—「平和を構築するためにはどのような支援が必要か」

研究者になったきっかけ「Life Workを探して」

大きなターニングポイントとなった出来事

「最初の現場経験～私の困難は小さな物～」

大きな影響を受けた人「サーの称号を持つ Big Boss」

博士課程(D)の時に不安だったこと

「D取得の最中に人脈やポストが失われたらどうしよう」

10年後の自分へ「今よりも大きなネットワークで研究していきたい」

博士課程進学を考える学生にメッセージ「現場を見てあなた自身のテーマをみつけてきてほしい」



第11回 2016年6月15日取材・2016年9月6日HP掲載

広島大学 大学院工学研究院 物質科学工学部門

化学工学専攻 萩 崇 准教授

仕事も家庭も「両方」大切！メリハリある生活で日々を過ごす！

研究内容

ナノの世界で勝負！粒子の構造を変えて色々な場面で応用を！

子ども時代の自分



ドクター時代:何かのナンバーワンになりたい！！

研究者になって悩んだ時や仕事が大変だったときを振り返って

スイスでの経験を日本でも！仕事も家族も精一杯大切にする！

10年後の自分:もっと世の中に貢献したい

第12回 2016年7月6日取材・2016年10月11日HP掲載

広島大学 大学院先端物質科学研究科 量子物質科学講座 鬼丸 孝博 准教授

ひたむきさを忘れずに一目に見えない磁性に魅了されて—

磁性物理学の専門家:どこに答えがあるか分からないから面白い！

修士時代の興奮と喜びが原点

～民間企業勤務から研究者の世界へ～

宇宙や太陽に興味があった子供時代:アマチュア無線にも夢中
だった！

育児もやります！休日は3人の子どもと遊ぶお父さん

何事にも好奇心旺盛でアクティブな祖父は憧れ！

挫折を大切に:失敗は人が成長するチャンス！

10年後将来の展望:ひたむきに研究、そして研究の面白さを
社会に伝えたい



第13回 2016年7月14日取材・2016年11月24日HP掲載

広島大学 大学院総合科学研究科 社会文明研究講座 長坂 格 准教授

フィールドワークという手法を使って「人間」を考える

手法に魅せられて

人が行かないところへ

問題意識や仮説を調査の中で問い直す

その場所の空気を吸い、雰囲気を感じ取る

今後やってみたいこと

博士課程後期進学を考える学生へのメッセージ



10-2. 山口大学独自の取組

10-2-1. 実施体制

山口大学においては、広島大学を中心とするコンソーシアム運営委員会で検討された事項を着実に実施するため、平成27年度に「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業に係る国立大学法人山口大学実行委員会」(以下、「学内実行委員会」と呼ぶ。)を設置した(図1)。以降、事業はこの学内実行委員会の下で実施している。

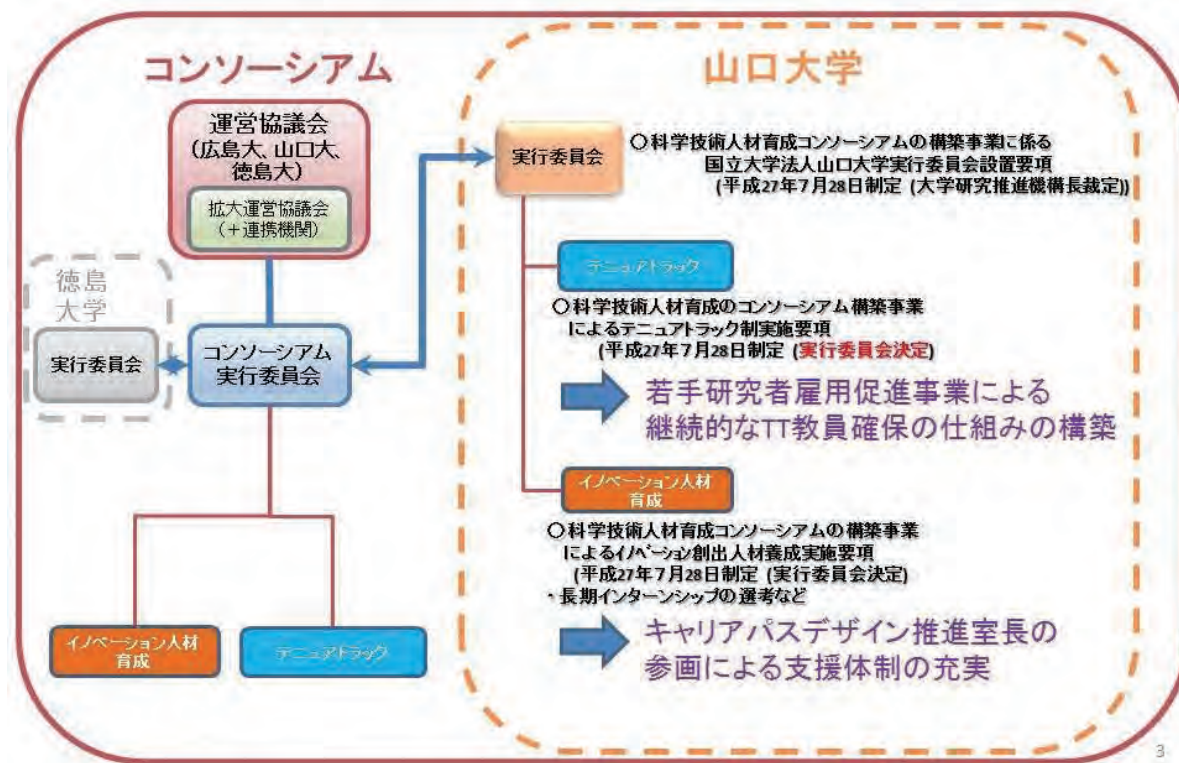


図1 山口大学における本事業の実施体制

10-2-2. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム

(1) 定着に向けた学内体制の整備

(ア) 長期インターンシップの共通科目化

山口大学では平成28年度に理系大学院を再編成し創成科学研究科を設置した。この研究科では、共通科目として長期インターンシップが設定されている。またこの研究科では、CPOT(実践教育プログラム)やアントレプレナー工房を立ち上げており、本事業としては今後もこの研究科との連携をはかり、イノベーション人材の養成を定着させていく。

(イ) キャリアパスデザイン推進室との連携

前述の研究科の再編成に合わせ、従来理工学研究科に所属し大学院生の進路開拓の支援をしていたキャリアパス形成支援室が、創成科学研究科所属のキャリアパスデザイン推進室となり、同様の業務を行うことになった。今回、連携をより深めるために、キャリアパスデザイン推進室長に学内実行委員会のメンバーに加わっていただいた。

(2)長期インターンシップ

今年度の計画では、長期インターンシップの予定数は2名であったが、希望者は4名であり、平成28年12月現在までにマッチングが可能であった3名を実際にインターンシップに派遣した。(3名のうち1名は完了、2名が派遣中)内訳は下の表1の通りである。

表1 山口大学の長期インターンシップ派遣実績

年度	計画数	実績数			派遣期間		派遣された学生・研究者										受入れ先					
		応募者数	採用数	派遣者数 (派遣終了者と派遣中の者の合計)	2か月程度以内	3か月程度以上	学年(派遣時)内訳				所属研究科内訳			性別内訳		国籍内訳		受入先セクター内訳			受入先国内別内訳	
							D1	D2	D3	PD以上	理工農系	医学系	人社会系	男性	女性	日本人	留学生	民間企業			国内	海外
																		東証一部上場	それ以外	民間小計		
平成27年度	2	4	2	2	2	2				2				2				1	1	1	2	
平成28年度	2	4	4	3	3	1	1	1		2	1		3		1	2		1	1	2	3	

(3)その他の取組:「山口大学大学院生研究手帳」の配布

博士課程学生がイノベーション創出人材となる一助としてコンソーシアム全体で手帳を作成しているが、これを補完するため、本学では博士課程学生(特に創成科学研究科の学生)の科目履修やキャリアデザイン関係科目について、きめ細かにガイダンスするための冊子、「山口大学大学院生研究手帳」を制作し配布した。(図2、表2)

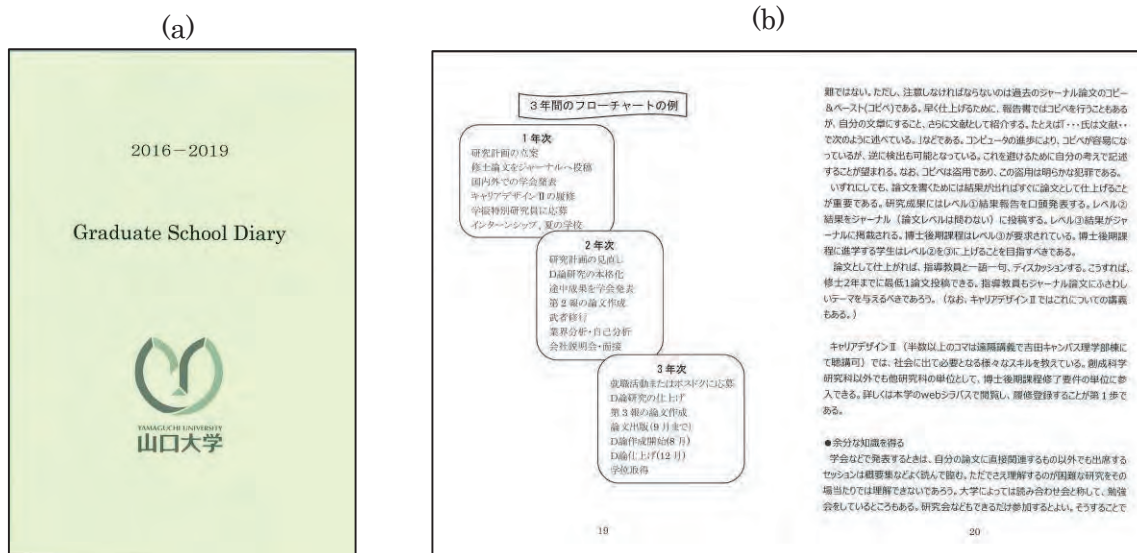


図2 「山口大学大学院生研究手帳」の表紙(a)と中身の一部(b)

表2 「山口大学大学院生研究手帳」の配布先

年度	印刷部数	配布部数		配布先キャンパス内訳															
		うち学生への配布数	うち教員への配布数	吉田キャンパス											常盤キャンパス				
				学生(創成科学研究科=理・農のみ)			教員				職員	吉田キャンパス小計	学生		教員全員	職員	常盤キャンパス小計		
				D1 全員	M1 全員	D2 以上	理	農	時間 学・総 科セ	東アジ ア等			D1全 員	M1全 員					
平成28年度	1000	732	439	281	9	135	24	68	33	4	4	10	287	19	252	172	2	445	

10-2-3. テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム

(1) 定着に向けた学内体制の整備

(ア) 若手研究者雇用促進事業の強化

本学では、平成27年度に、補助金によらない本学独自のテニュアトラック(TT)教員の雇用事業を開始している(表3★の2名)。平成28年度には、この制度によるスタート研究費支援や女性教員が採用された場合の部局へのインセンティブ付与など制度を一層整備・強化した。

(イ) 若手研究者の海外研修等事業を準備

TT制度とは別に、本学予算による若手研究者の海外研修等の制度創設を準備中である。

(2) テニユアトラック教員採用実績

表3に本学において各事業で採用したテニユアトラック教員数を示す。

コンソーシアム事業では、●に示すように、平成27年度2名と平成28年度の1名が採用されている。いずれも国際公募であり、特に平成28年度採用者は女性限定公募による採用であった

表3 山口大学のテニユアトラック教員の採用実績

実施部局	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成27年度	平成28年度
医学系研究科	◆ 1名 		▲ 1名 		
創成科学研究科(理)		◆ 1名		● 1名	★ 1名
創成科学研究科(工)	◆ 1名	◆ 1名	▲ 1名		
創成科学研究科(農)			▲ 1名		● 1名 
共同獣医学部		■ 1名 		● 1名	
時間学研究所				★ 1名	
計	2名	3名	3名	3名	2名
累計	2名	5名	8名	11名	13名

テニユアトラック普及定着事業による採用			● コンソーシアム事業による採用	★ 本学独自制度 (若手研究者雇用促進事業)による採用
◆ H23年度公募事業	■ H24年度公募事業	▲ H24年度(後期)公募事業		

(3) ラボローテーションの試行

流動性の一つとして本事業の特色となっているラボローテーションについて、本学では、創成科学研究科(理)原助教が、平成28年7月28日～8月8日に、米国 Marine Biology Laboratory に出張して実施した研究を、ラボローテーションとして認定した。

10-3. 徳島大学独自の取組

10-3-1. 実施体制

事業開始とともに本学の研究戦略室（室長＝研究担当理事・副学長）において、若手研究者の自立・流動促進プログラムを推進する為の「テニュアトラックプロジェクト小委員会」と、イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラムを推進する為の「インターンシッププロジェクト小委員会」を設置する等、本事業を推進する体制を整備し、テニュアトラック教員の採用や長期インターンシップの派遣に向けて活動を実施している。

10-3-2. 若手研究者の自立・流動促進プログラム

テニュアトラック教員の公募に際しては、大学全体として計画的に取り組むため、研究戦略室会議にて、各部局からの採用提案を受けた上で、最も適切と考えられる部局で公募を実施することとしている。

その結果、これまで3回公募を行ってきたが、平成27年度採用者は生物資源産業学研究部から1名、平成28年度採用者は医歯薬学研究部（薬学系）から1名、平成29年度採用予定者は医歯薬学研究部（医学系）と、公募分野は幅広いものになっている。

また、大学として、テニュアトラック制度の普及・定着を図るため、平成27年度にテニュアトラック制度に係る規則未制定の部局に規則制定を促し、当該制度の定着を目指しているところである。

なお、テニュアトラック教員の公募に際しては、特に次の点に配慮している。

- ・JREC-IN、コンソーシアム HP、本学 HP 等に、英語及び日本語の公募要領を掲載するとともに、公募期間は原則2か月を確保するよう努力することで、幅広い人材を募る。
- ・公募要領に女性研究者への支援を明記することにより、女性研究者の応募を促す。
- ・公募期間の長期確保、英語版公募要領の作成、質問への英語対応等外国人研究者が応募しやすい環境を確保する。

採用後は、研究支援・産官学連携センターに配置している URA により、外部資金獲得に関するサポート（公募情報提供、説明会開催、申請書作成支援等）等を行っている。

10-3-3. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム

平成26年度から、毎年2名の長期インターンシップ派遣を目標として事業を進めている。平成27年度、平成28年度は、目標の2名派遣（平成27年度は外国人留学生）を達成した。

派遣先については、民間企業3、独立行政法人1件となっており、派遣する学生と受入先のニーズを踏まえた多様なものになっている。

また、長期インターンシップ派遣に際し、平成27年度までは長期インターンシップ支援室が設置されている先端技術科学教育部の学生を派遣したが、平成28年度は栄養生命科学教育部の学生を派遣するなど、段階的に全学の学生を派遣する仕組みを構築しているところである。

なお、平成 27 年度に派遣した外国人留学生 1 名が、長期インターンシップの経験を踏まえて本邦の民間企業への就職を目指し、今年度に内定を得たことは一つの成果といえる。

10-3-4. その他の活動

博士後期課程進学者のすそ野を広げるべく、平成 28 年 3 月 24 日に、日本学術振興会の特別研究員説明会を本学が主催し、広島大学、山口大学、本学の 3 大学間を TV 会議システムでつなぐ方式で開催した。

また、コミュニケーション能力の向上を目的として開催された未来博士 3 分間コンペティションに、平成 27 年度は本学からは 5 名の博士後期課程学生を派遣した。平成 28 年度は、新たに日本語部門と英語部門に分かれて開催されたが、本学からは前者については 5 名、後者については 1 名を派遣した。

10-3-5. 特筆すべき活動

コンソーシアムの連携機関への新規加入を促進するため、広島大学とともに事業紹介の事業向けパンフレットを作成し、企業、機関への説明を積極的に行っている。平成 28 年度は、次のイベントに参加し、本事業についてのポスター展示・紹介を行った。

- ・ 7 月 20 日～21 日 Dis ワールド in 四国 たかまつ (高松市)
- ・ 9 月 1 日～2 日 RA 協議会 (福井市)
- ・ 9 月 27 日 徳島大学エンジニアリングフェスティバル (徳島市)
- ・ 10 月 27 日～29 日 徳島ビジネスチャレンジメッセ 2016 (徳島市)
- ・ 11 月 4 日 第 2 回四国オープンイノベーションワークショップ (松山市)

また、博士人材を増やすための取組として、学生の意識啓発のためにコンソーシアムで作成した小冊子や、新 D1 の学生が自覚を持って大学院生活を送ることを狙って作成した「4 年手帳」を、入学ガイダンス時に配布した。

1 1. 外部評価

1 1-1. 外部評価委員会

若手研究人材養成担当では、外部の関連組織・有識者の方に外部評価委員を委嘱し、本システムの外部評価を受けている。外部の方の意見を真摯に受け止め、より良い取組とするよう努めている。

11-1-1. 第2回外部評価委員会

日 時:平成 28 年 8 月 5 日(金)13:30~15:40

場 所:シェラトングランドホテル広島 3F 水輝

外部評価委員(五十音順)

広島県商工労働局 イノベーション推進部長	上丸 敦仁
経済産業省中国経済産業局 地域経済部長	大原 晃洋
三菱レイヨン株式会社大竹研究所 主席研究員	岡本 英子
近畿大学工学部教授、次世代基盤技術研究所 3D 造形技術研究センター長	京極 秀樹
公益財団法人とくしま産業振興機構 理事長	酒池 由幸
株式会社広島銀行法人営業部シニアマネージャー	西岡 賢
地方独立行政法人山口県産業技術センター イノベーション推進センター医療県連推進チーム プロジェクトプロデューサー	安田 研一

【総合講評】

外部評価委員の意見を集約すると、次のとおりである。

(1) プラットフォームについて

平成 27 年度には、「若手研究者ポートフォリオ」が運用され始められ、長期インターンシップなど着実に実施されるなど各項目が実質化してきており、体系化された優れたプログラムであると評価できる。

(2) プログラムの実績について

プログラムの 2 本柱である、「イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム」においては、博士人材のキャリアスタートを可能とするシステム構築を目指しており、長期インターンシップの派遣についても、年次計画の通りの人数を派遣できている。シーズ・ニーズの出会いの場としている若手研究者発表会など十分な取組が行われている点は評価できる。もう一つの柱である「テニュアトラック導入による若手研究者の自立流動促進プログラム」については、深い専門性と広い視野を持つ優秀な人材を地方に確保し、さらに育成することを目指しており、テニュア教員採用数についても、年次計画通り採用されている。まだ始まったばかりであるので、今後の実質化を期待する。

以下、課題として次の点が挙げられる。

(1) イノベーションプログラムについて

トランスファラブルスキル養成講座、シーズ・ニーズの出会いの場の提供など様々なイベントを実施しているが、これらを連携強化することにより、より一層学生の課題発見解決能力を高める仕組みを構築すべきである。

(2) 企業への広報活動について

本プログラムにおいては、企業との連携は不可欠で、企業にプログラムの意義を十分に理解してもらうための広報活動をさらに積極的に行い、企業の意識改革のための方策も必要である。例えば、各地での企業向けセミナーを実施する。このような取組を通じて、地方への人材輩出を強化する必要がある。

(3) 学生の意識改革

さらに多くの博士課程の学生に本プログラムに参加してもらい、博士課程での研究開発の経験は、アカデミアだけでなく企業でも働ける、視野が広くかつ専門性の高い人材となると意識を持たせることが重要である。このためには、プログラムにおいて十分な配慮が必要である。

(4) 教員の意識改革

本プログラムを成熟させるためには、学生だけでなく教員の意識改革が重要である。本プログラムの範疇ではないが、大学組織として教員の意識改革をする努力をお願いする。

【総評】

本プログラムは、若手研究人材を地方に輩出するための優れたプログラムで、2年間で着実に実施されており、大いに評価できる。今後は、本プログラムを通じて輩出された人材の評価も必要となるため、評価方法についても検討しておくことが必要である。また、本プログラムは地方への優れた研究者を輩出することを目的としているため、この視点に立ったプログラムの改善を行い、地方における若手研究人材育成の模範となるプログラムにしていきたい。

11-2. 科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業 中間評価

文部科学省 科学技術人材育成費補助事業

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業（次世代研究者育成プログラム）

の平成26年度選定機関として、事業の中間評価を受けた。

平成28年6月30日（木） 中間評価における成果報告書を提出

平成28年10月23日（日） 中間評価ヒアリング

発表開始時間 14時40分～

場所 国立研究開発法人科学技術振興機構 東京本部（サイエンスプラザ）

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業
次世代研究者育成プログラム
(実施期間：平成 26～33 年度)

コンソーシアム名：未来を拓く地方協奏プラットフォーム

代表機関：広島大学（総括責任者：越智 光夫）

共同実施機関：山口大学、徳島大学

取組の概要

中国四国地方の大学等を中心としたコンソーシアムを構築し、広島大学、山口大学、徳島大学が共同してテニュアトラック研究者を公募、選考し、より多くの優秀な若手研究人材を国内外から集める。また、多様な雇用・流動形態（クロスアポイントメント、ラボローテーション等）の導入により、若手研究人材が異なる知と交わり、ネットワークを構築できるように支援するとともに、女性枠を設定し、女性の活躍促進につなげる。

博士課程（後期）学生を含む若手研究人材が、地域や国際社会を変革するイノベーターとして自立できるよう、実践的な人材の養成・活躍を可能とするプラットフォームを各大学等で共同して構築する。また、トランスファラブルスキルの養成に必要なリソースの共有を図り、シーズ・ニーズのマッチングにより、インターンシップ、就職、共同研究等の機会を増やす。

若手研究人材の養成・活躍を通じて、コンソーシアム内外の知の循環を加速させ、地域全体の社会的課題の解決やイノベーションの創出を図り、地方再生につなげる。

(1) 評価結果

総合評価	進捗状況 (全般)	進捗状況 (システム構築)	進捗状況 (取組の内容)	体制構築	今後の進め方
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

中国四国地域全体を巻き込んだ取組となっており、2年間でコンソーシアム連携機関が17機関から45機関へ拡大した実績は、本事業の大きな波及効果として評価できる。また、テニュアポストを準備し、国際公募と厳正な選考を経て言語学、経済学、自然科学と広範囲にわたって優秀な次世代研究者を採用しており、外国籍、女性の研究者割合も高く、計画に沿って研究者育成を進めていることは、評価できる。さらに、イノベーション創出人材育成のための多様なプログラムが実施されており、若手研究人材ポートフォリオ、未来博士3分間コンペティション、若手シーズ発表会、インターンシップ等、特徴ある取組と評価できる。今後は、企業等とのクロスアポイントメント制度の具体化を図る等、さらなる雇用システムの改革を期待する。

・**進捗状況（全般）**：次世代研究者育成、イノベーション創出人材育成とともに、計画に沿って順調に実施されており、教員の公募・採用実績では、女性限定公募によって女性採用割合が目標を超えていることは、評価できる。また、中国四国地域への波及、評価の仕組みの構築等の選定時コメントに対して適切に対応していることは、評価できる。

・**進捗状況（システム構築）**：若手研究人材のキャリアアップを図る仕組みとして、若手研究人材ポートフォリオ、コンソーシアム教員研修、メンター制度等の実施は、評価できる。また、次世代研究者は毎年コンソーシアムで評価を受け、着任から3年までに行われる中間評価及び4年半までに行われる最終評価があり、次世代研究者が研究業績について適切に評価を受けるシステムが構築されていることは、評価できる。

・**進捗状況（取組の内容）**：採用に当たり国際公募を行い、二次選考は公開面接形式として、公正公平な審査が行われたことや、女性限定公募等で女性を積極的に採用し、外国籍研究者の割合も高いことは、評価できる。また、若手研究人材がテニユアトラック制により採用されており、自立した研究環境を得るとともに、業績に応じて将来の安定した職が確保されていることは、評価できる。

若手研究人材ポートフォリオの本格稼働、未来博士3分間コンペティション、若手シーズ発表会等に取組み、インターンシップ等、博士課程（後期）学生やポストドクターの多様なキャリアパスの確保を支援する取組となっている点は、評価できる。

・**体制構築**：運営協議会は高い頻度で実効性を持って開催されており、その下にコンソーシアム実行委員会が機能していることは、評価できる。また、地域企業等を含めた外部評価委員会を設置しており、地域での人材育成についての共通見解を醸成するためには有効な方法であると評価できる。また、コンソーシアム連携機関が17機関から45機関へと拡大した実績は、中国四国地方への波及効果という点で評価できる。

・**今後の進め方**：今後の計画はこれまでの取組を継続発展させる内容であり、6年度目以降についても、具体的な数値目標及び具体的な自主財源の確保に向けた見通しがあり、構築したシステムを自立的に維持し、継続し得る計画となっている点は、評価できる。今後は、クロスアポイントメント制度やラボローテーション制度等、地域企業を含めた人材の安定雇用や流動化の方策を進めることを期待する。

未来を拓く地方協奏プラットフォーム

平成 28 年度（2016 年度）成果報告書

発行年月：平成 29 年 3 月

編集・発行：「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」運営協議会事務局

広島大学グローバルキャリアデザインセンター

若手研究人材養成担当

所在地：〒739-8514 東広島市鏡山一丁目 7 番 1 号（学生プラザ 2F）

TEL：082-424-2058

FAX：082-424-4565

（無断複写・転載を禁じます。）



未来を拓く地方協奏プラットフォーム

HIRAKU

Home for Innovative Researchers and
Academic Knowledge Users